

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書
(令和6年度事業対象)

令和7年12月

井原市教育委員会

目 次

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び 評価の実施方法等について	1
(1) 点検・評価の目的	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法	
II 教育委員会の活動状況	
1 教育委員会会議の開催状況	3
2 その他の主な活動	5
III 令和6年度 教育委員会事務事業評価調書	
重点施策 大項目1 よりよい学校教育により よりよい社会を創る	8
重点施策 大項目2 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習	30
重点施策 大項目3 個性ある地域文化を育むまちづくり	47
重点施策 大項目4 スポーツの力でつくる ひととまち	53
重点施策 大項目5 教育施設・設備の整備と機能の充実	58
井原市教育委員名簿	61

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条の規定に基づき、井原市教育委員会が教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図り実施した点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

令和6年度を対象期間とする。

イ 対象事務

法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象とする。

(3) 点検・評価の方法

法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する5人の委員による「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」を開催し、教育委員会事務局が作成した自己評価調書について、点検・評価をいただいた。

なお、第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び各分野における専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏 名	役 職 等
東 恵 子	元芳井中学校長
佐 藤 美 保	井原市社会教育委員
高 村 俊 二	元井原市スポーツ協会 副会長
佐 藤 陽 子	井原市文化協会 副会長
片 山 正 樹	元井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

Ⅰ 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催することとしている。

この会議において、教育長と4人の教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

令和6年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
令和6年 4月定例会 (6.4.23)	市役所 403 会議室	【報 告】 井原市教育委員会職員の人事異動について 井原市公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市芳井公民館三原分館長の任命について 井原市ふれあいセンター運営委員会委員の委嘱について 井原市立平櫛田中美術館運営委員会委員の任命について 井原市立学校における学校運営協議会の対象学校の指定について 【議 案】 井原市立学校の学校運営協議会委員の任命について
5月定例会 (6.5.31)	市役所 403 会議室	【報 告】 井原市公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市社会教育委員及び井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 井原市立学校評議員の委嘱について 井原市立平櫛田中美術館運営委員会委員の任命について
7月定例会 (6.7.18)	市役所 403 会議室	【報 告】 令和6年度井原市一般会計補正予算(第2号)について 【議 案】 令和7年度使用井原市立高等学校教科用図書の採択について 【協 議】 令和7年度使用井原市立中学校教科用図書の採択について
7月臨時会 (6.7.30)	市役所 403 会議室	【議 案】 令和7年度使用井原市立中学校教科用図書の採択について

8月定例会 (6.8.29)	市役所 403 会議室	【議 案】 井原市重要文化財の指定解除について 井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員の委嘱について 【協 議】 就学前教育・保育施設のあり方の検討について 井原市立高校入試制度について
9月定例会 (6.9.27)	市役所 403 会議室	【報 告】 教育委員会委員の任命について 令和6年度井原市一般会計補正予算(第3号)について 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について 令和6年度岡山県学力・学習状況調査の結果について 【議 案】 井原市文化財保護審議会委員の委嘱について 井原市立学校管理規則の一部を改正する規則について 井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会設置要綱について
10月定例会 (6.10.16)	市役所 403 会議室	【協 議】 令和5年度井原市教育委員会事務事業評価について
12月定例会 (6.12.18)	市役所 403 会議室	【報 告】 令和6年度井原市一般会計補正予算(第5号・第6号)について 第1回井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会について 【議 案】 令和6年度末井原市教職員人事異動方針について
令和7年 1月定例会 (7.1.31)	市役所 403 会議室	【議 案】 令和7年度全国学力・学習状況調査への参加について 井原市奨学資金貸付条例施行規則の一部を改正する規則について 【協 議】 子どもの読書活動について 令和7年度教育行政重点施策について
3月定例会 (7.3.26)	市役所 403 会議室	【報 告】 井原市教育委員会教育長の任命について 令和7年度井原市一般会計予算(教育費関係)について 【議 案】 令和7年度教育行政重点施策について 井原市適応指導教室運営規則の一部を改正する規則について 井原市市費負担教員の任用等に関する規則を廃止する規則について 井原市公民館長の任命について 井原市立平櫛田中美術館運営委員会委員の委嘱について 令和6年度末井原市教職員人事異動の内申について 井原市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則について

2 その他の主な活動

教育長及び教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。
令和6年度における主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
4月10日 ～12日	入学(園)式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 11園
4月21日	井原海洋センターオープニングセレモニー	井原海洋センター
4月24日	令和6年度おかやま教育懇談会	Web会議
5月 9日 ～10日	第74回全国都市教育長協議会定期総会・研究大会 長崎大会	長崎県長崎市
5月16日	2024年度中国ブロック海洋センター連絡協議会総会	島根県美郷町
5月29日	第28回笠岡地区租税教育推進協議会定期総会	サンライフ笠岡
7月19日	令和6年度7月期教育長連絡会議	岡山市 ピュアリティまきび
7月23日	県立高等学校の在り方を考える会の意見交換会	岡山県庁
8月 9日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	岡山市 サピオ OKAYAMA
10月	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	書面決議
10月15日	県市町村教育長意見交換会	おかやま西川原プラザ別館
10月17日	令和6年度中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会	鳥取県米子市
10月18日	西江原小学校研究発表会	西江原小学校
10月23日	令和6年度10月期教育長連絡会議	岡山市 ピュアリティまきび
10月24日	大江幼稚園研究発表会	大江幼稚園
11月15日	美星中学校研究発表会	美星中学校
11月20日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	平櫛田中美術館
11月22日	第21回B&G全国教育長会議	東京都
12月 3日	井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会	井原市役所
1月12日	令和7年井原市二十歳のつどい	井原市民会館
1月22日	第17回B&G全国サミット	東京都
2月 2日	井原市まち&ひとづくりフェスタ	芳井生涯学習センター
2月 5日	行政視察研修	瀬戸内市民図書館
2月 8日	美星海洋センター体育館オープニングセレモニー	美星海洋センター
2月13日	井原市総合教育会議	井原市役所
3月 1日 ～19日	卒業(園)証書授与式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 12園

令和6年度 教育委員会事務事業評価調書

1. 評価調書の取りまとめについて

「令和6年度教育行政重点施策」の体系に基づき、小項目ごとに取組状況と成果、課題と対応策等を評価調書として取りまとめています。

【基本目標】伝統、文化が引き継がれ、郷土を愛する人が育まれるまちづくり

大項目	中項目	小項目
1. よりよい学校教育により よりよい社会を創る	1. 基礎学力の向上	(1) 幼児教育の推進
		(2) 義務教育の推進
		(3) 高校教育の推進
		(4) 特別支援教育の推進
		(5) 教師力の向上
		(6) 社会に開かれた教育課程の実現によるワーク&ライフキャリア教育の推進と井原“志”民力の育成
	2. 心と体を育てる教育の充実	(1) 心の教育の推進
		(2) 健やかな体力づくりの推進
		(3) 不登校対策と生徒指導の充実
		(4) 基本的生活習慣の定着
	3. 学校・家庭・地域の連携による人づくり	(1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成
		(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化
2. 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習	1. 学校・家庭・地域の連携による人づくり	(1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成
		(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化
		(3) 家庭や地域の教育力の向上
	2. 生涯学習の充実	(1) 生涯学習によるまちづくりの推進
		(2) 魅力ある学習機会の提供と環境づくり
	3. 人権を尊重する社会の実現	(1) 人権教育の推進
3. 個性ある地域文化を育むまちづくり	1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり	
	2. 文化施設の活用	
	3. 文化財・歴史的資源の保存・活用	
4. スポーツの力でつくる ひととまち	1. 気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり	(1) 生涯スポーツの振興
		(2) 体力や健康状態にあったスポーツの振興
	2. 競技スポーツの振興	(1) 井原市スポーツ協会の充実
		(2) スポーツによる元気の発信
5. 教育施設・設備の整備と機能の充実	1. 学校(園)施設・設備の整備と機能の充実	
	2. 社会教育施設・設備の整備と機能の充実	

2. 評価調書の項目について

表 題 小項目の名称

方 針 小項目に関する事業推進の方針

目標指標 小項目に関する事業の達成度を評価するための指標

年度中における取組状況と成果

年度中における各種事業の取り組み状況と成果を記述しています。

□（白ぬきの四角）は、担当課による自己評価で、「成果を上げ、目的を達成している。」、「目的をほぼ達成している。」

■（黒ぬりの四角）は、「目的を達成していない。」、「十分な成果があがっていない。」

課題と対応策

目的を達成していない事業や十分な成果があがっていない事業について、課題と改善のための対応策を記述しています。

また、目的を達成した事業等についても、さらなる改善事項や今後の展望等について記述しています。

有識者による評価意見

井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会において各委員から発言のあったご意見等を記入しています。

1. よりよい学校教育により よりよい社会を創る（学校教育の充実）

1. 基礎学力の向上

1－（１）幼児教育の推進

幼稚園教育の推進のため、全園で3歳児教育と預かり保育を実施します。

また、幼稚園の教職員研修の充実により、生涯にわたる人格形成の基礎を担う就学前教育の質の向上を図るとともに、小1プロブレムの解消に向け、小学校教育への円滑な接続ができるよう、幼稚園等と小学校との連携を推進します。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	保幼小接続推進会議を 計画的に行っている小 学校区	全学区 (R3)	全学区	全学区	全学区	全学区	全学区
			全学区	全学区			
令和6年度中 における取組 状況と成果	□幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実 平成30年度から実施となった教育要領に基づいた適切な教育課程を編成・実施し、保育実践の充実を図った。教育要領について、研修、研究等を行い、各園で実践を行った。						
	□幼稚園教職員研修の充実 預かり保育、3歳児教育、特別支援教育、運動遊び等幼児理解を深め、指導力を向上するための研修を各園で行った。幼稚園教諭としての専門性を高め、保育の充実につながった。						
	□幼稚園における預かり保育の充実と家庭教育力の向上 預かり保育担当者研修を実施し、幼稚園教育要領に基づいた教育活動について研修を行った。令和6年度は、主に、幼児が安心・安全に過ごすための預かり保育内容の工夫について研修を深めた。						
	□保幼小接続事業 現在実施を推進されている、幼保小の架け橋プログラムについて説明し、普及・推進を行った。(5小学校区) 育てたい子ども像を念頭におき、保幼小の職員が共通の視点をもって、教育課程や指導計画を具現化していく方策について研修を深めた。						
	□非認知能力育成プログラムの開発・導入 ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業の一環として、「井原版 aeru school (井原デニムを用いた非認知能力育成プログラム)」を実施し、井原デニムや、地域の素材に触れて遊ぶ中で育つ非認知能力の見取りと検証を行った。各園で幼児に育てたい非認知能力が、教師のどのような援助や環境構成によって育っていったかを実践事例を持ち寄り研修した。						

	<p>□他園交流の推進</p> <p>オンラインによる交流が積極的に行われている。幼児同士の事前の顔合わせや、導入を行っておくことにより、対面での交流に効果的である。また、職員同士も事前・事後の打ち合わせ、反省をオンラインで行うことができ、移動時間が削減された。</p>
課題と対応策	<p>幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実</p> <p>幼稚園就園率の急激な低下により、井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会を設置し、今後のあり方について検討を行っている。子どもの道徳性や社会性を育むために、効果的な集団規模や形態を検討していく。</p>
有識者による 評価意見等	<p>幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実</p> <p>就学前教育・保育施設のあり方検討委員会からの答申を踏まえた適正規模・適正配置の検討を行い、一定の集団規模を確保した子どもたちの教育環境の整備に努めてもらいたい。</p>

1 - (2) 義務教育の推進

学級が落ち着き、高め合う集団であることがすべての教育活動の基本となるため、落ち着いた学級づくりを推進します。

確かな学力の育成については、言語活動の充実、きめ細かな指導、教職員研修の充実を図るとともに、小中学校において主体的な学びのサポート事業を継続します。

学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携・協働のもとに、次代を担う子どもたちに、学びに向かう力・人間性の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成するための教育を推進します。

目標指標 (全国値を上回る) ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する児童の割合(小学校)	73.4%	57.1%	54.6%			
		(R3)	66.0%	54.7%			
	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する生徒の割合(中学校)	72.9%	65.8%	64.3%			
		(R3)	62.3%	62.5%			
	国語の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	84.5%	85.7%	86.3%			
		(R3)	91.7%	82.2%			
	国語の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	84.7%	80.0%	82.7%			
		(R3)	83.8%	76.6%			
	算数の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	85.1%	81.2%	82.1%			
		(R3)	83.0%	81.0%			
	数学の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	76.8%	73.3%	75.7%			
		(R3)	88.6%	80.1%			
令和6年度中 における取組 状況と成果	<p>□いばらっ子伸びる学力支援事業(非常勤講師8人配置、小1支援員配置)</p> <p>少人数指導充実のための市費非常勤講師配置:算数科・国語科、英語科等において習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図った。</p> <p>高屋小・稲倉小・県主小・西江原小・井原小・出部小・芳井小及び高屋中・木之子中・井原中・美星中に配置。</p> <p>小1支援員は出部小と西江原小へ配置した。適切な配置と効果的な活用ができ、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。</p> <p>□小規模校学習支援活動</p> <p>小規模小学校から大規模中学校への進学に伴う「中1ギャップ」の解消・緩和を図るため、中学進学前に交流学习を実施。令和7年1月17日に野上小6年生児童3人と青野小6年生児童7人が西江原小学校へ出向き、西江原小6年生児童41人とともに学習や交流を行った。通常の授業と一緒に体験することにより、中学進学への意識向上と人間関係づくりに一層よい影響を与えている。</p> <p>□全国学力・学習状況調査の実施</p> <p>学習指導要領で示されている学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力等)の育成を図るための検査を実施した。</p> <p>児童生徒の学力と課題について把握し、対応を進めることができた。</p>						

□学力向上対策事業

児童生徒の現状と課題、各校の取組を共有し、市全体で学力向上に向けた意識と実践の高揚を図るため、学力向上対策研修会を年2回実施した。

基礎基本の定着が十分でないことが学力調査結果から明らかになったため、学校全体で取り組む組織的な取組について協議を行い、共有を図った。

今後の授業改善の具体的な取組について全体で共有することができた。

□一人一台端末を中心とするＩＣＴ機器を活用した教育活動の充実

GIGAスクール構想の取組の1つとして、児童生徒1人1台端末が導入され4年目となった。各校において、電子媒体課題の配布回収・調べ学習・児童生徒個々の意見や考えの共有などに活用された。

また、小中学校共に児童生徒の発達段階に応じ可能な学年で端末の持ち帰りを実施した。1学期と2学期にはアンケート調査を実施し、検証を行った。

□デジタル教科書の活用推進

小学校の指導者用として、書写と音楽以外の教科の授業で、必要に応じて写真、動画、音声等による教材提示ができるため、活用している。「分かりやすい授業の実現」、「教職員の負担軽減」、「児童生徒の情報活用能力の向上」の定着のために有効である。

□英語授業の充実（ALT8人の活用）

市内幼稚園・小・中・高等学校全体でALT8人を派遣。小学校外国語活動、国際理解教育、外国語授業の助手として充実した働きをしている。1日の授業は3時間から5時間で1日7時間勤務。市内小学校では3・4年生は年間35時間の外国語活動、5・6年生は年間70時間の外国語科の授業を行った。学校では活用法の工夫をすすめている。学校でも効果的に活用しており、外国語教育の充実を図ることができた。

■グローバル人材育成事業（英語検定料補助金）

英検の検定料の助成対象者を井原市立中学校在籍の全生徒とし、中学校卒業程度レベルである3級合格を目指し、級を問わず、生徒1人に対し最大年2回の検定料を補助している。令和6年度実績は141人（中1:22人、中2:46人、中3:73人）、申請率は16.9%であった。令和5年度実績は149人、申請率は17.4%だったので、昨年度より若干減少した。英語検定受験者数に対しての申請率は不明だが、補助を希望する家庭が漏れなく申請できるよう、より一層の周知を図る必要がある。

□主体的な学びの基盤づくり事業（13小学校、5中学校）

（旧「放課後学習サポート事業」）

小中学校に支援員・指導員を配置し、放課後に補充的な学習等を実施することで、学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学力向上を図った。

参加する学年や時期、内容等各校で工夫され計画的に実施することで児童生徒

	<p>の学力向上に成果があった。</p> <p>□片山科学賞基金運営事業</p> <p>片山科学子ども教室は、岡山理科大学の学生を講師として招聘し、サイエンスショー及び4ブースに分かれての体験・実験を行い、科学する心の育成を図った。また、小・中学校の児童生徒の科学研究・発明工夫の表彰を実施した。表彰された作品は「科学する心」という研究収録にまとめた。出品数は、科学研究31点、発明工夫10点であった。</p> <p>片山科学賞は37回となり、科学する心の育成に寄与している。</p>
課題と対応策	<p>一人一台端末を中心とするICT機器を活用した教育活動の充実</p> <p>端末の活用について、指導者が電子黒板に映し出すなど提示等に活用することは概ねできている。一方で児童生徒が活用する頻度については学校や、指導者により差がみられる。児童生徒が主体的に学習するためのツールとしてICT機器を活用できるよう、各校に指導していく。</p> <p>グローバル人材育成事業（英語検定料補助金）</p> <p>より一層の周知を図るとともに、補助を希望する家庭が申請しやすくできるよう、申請方法について検討する。</p>
有識者による 評価意見等	<p>義務教育の推進</p> <p>市内のほとんどの小中学校が小規模校となっており、集団形成が困難となってきた。一定規模の集団の中で子供たちが学習や教育活動ができるよう、小中学校についても適正規模・適正配置の検討を推進してもらいたい。</p> <p>グローバル人材育成事業（英語検定料補助金）</p> <p>申請方法や回数の見直しなどの工夫はされているが、申請率が低下している。より効果的な補助制度の周知や手続き方法について検討していただき、申請率の向上に努めてもらいたい。</p>

1－（3）高校教育の推進							
井原市立高等学校は、井笠地域唯一の定時制高等学校としての特徴を活かし、生徒の「未来を拓く学びの場」として、様々な背景を持つ生徒の学力向上と社会性の育成を図り、生徒の自己実現を通して地域社会に貢献する高校を目指します。 <div>（令和6年度生徒数：87人）</div>							
目標指標 ※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	授業や課題に取り組むなかで「できた」「わかった」と感じたことがある生徒の割合	94.0% (R5)	94.0% 94.0%	94.0% 95.0%	94.0%	94.0%	94.0%
令和6年度中における取組状況と成果	<div>□キャリア教育の充実</div> <div>4年間を見通した体系的な指導計画を立て、職業体験学習・職場見学・インターンシップ・進路講演会など進路行事を実施し、自分に合った進路の早期決定を促した。どの行事も事前学習をして臨み、経験的行事では発表会なども実施し、学習の深化を図っている。今年度、100%の就職率を達成することはできなかったが、進路を絞り切れない生徒にもさまざまな選択肢を提示し、生徒の夢を応援するため、多様な希望に対応した。</div>						
	<div>□各種検定・資格の取得推進</div> <div>多くの生徒が様々な検定に挑戦し、資格を取得している。漢字能力検定では、2級に1人、準2級に1人、3級に3人、4級に2人、5級4人、食物調理技術検定では、3級に9人、4級に16人が、文章入力スピード試験では3級に1人が合格した。様々な検定に挑戦し資格を目指すことで、学習意欲の向上が見られる。</div>						
	<div>□主権者教育の推進</div> <div>公民科「現代社会」の中で、主権者教育について学習した。</div>						
	<div>□消費者教育の推進</div> <div>家庭科「家庭総合」の中で、消費者として自立することについて学習した。</div>						
	<div>□一人一台端末を中心とするICT機器を活用した教育活動の充実</div> <div>一人一台端末を中心とするICT機器を活用した授業を実施した。</div>						
課題と対応策	<div>目標指標</div> <div>授業や課題に取り組むなかで「できた」「わかった」と感じたことのある生徒の割合はR6年度授業に関するアンケートでは95%という数値であった。残り5%の生徒にも「できた」「わかった」が実感できる授業づくりに努めたい。</div>						
有識者による評価意見等	<div>キャリア教育の充実</div> <div>引き続き、今後も生徒に寄り添った指導や就職相談に努めていただきたい。</div>						

1－(4) 特別支援教育の推進							
<p>学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくりを通じ、特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実や教員の指導力の向上を図り、子どもたちが達成感や成就感を持ち、学習意欲を高めることができるようにします。また、就学前から卒業後までを一貫して支援できるよう、関係機関と連携体制の整備を図ります。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	学習支援員を対象とした特別支援教育研修会の開催	年1回	1回	1回	1回	1回	1回
		(R3)	1回	1回			
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□学習支援員の活用（42人） 原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。 6時間×200日 41人（高小3、大小1、稲小2、県小1、木小3、荏小1、西小4、野小2、青小2、井小4、出小5、美小2、芳小3、高中1、木中2、井中3、美中1、芳中1）を配置した。 （1名欠員）特別支援の必要な児童・生徒の支援を中心に行い、落ち着いた学校づくりに果たした役割・成果は非常に大きい。</p> <p>□巡回相談員の配置と活用（3人） 特別支援教育に関する専門的な指導を行う巡回相談員3人を配置し、保育園、幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。 学校園が巡回相談員を選択し、専門家を学校へ派遣することによって、多角的な視点から適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。</p>						
課題と対応策	<p>学習支援員の活用 特別支援の必要な児童・生徒数の出現率は増加傾向であり、引き続き支援員の適正配置に努め、支援内容等について研究していく。</p>						
有識者による評価意見等	<p>学習支援員の活用 今後も支援員の確保・維持に努め、特別な支援を必要とする児童・生徒に寄り添った教育を実践していただきたい。</p>						

1－(5) 教師力の向上

子どもたち一人ひとりの状況を的確に把握し、習熟度別指導など個に応じたきめ細かい指導を充実するとともに、授業改善やICT活用等指導力向上のための研修を推進することなどにより、子どもの学習意欲を喚起し学力を向上させる「教える技術（授業力）」の高い、不断に学び合う教員を養成します。

さらに教職員には、強い使命感、子どもたちへの教育的愛情及び実践的指導力やコミュニケーション能力など、学校や子どもたちが抱えるさまざまな教育課題に適切に対処できる資質や能力が求められることから、人間性豊かで優れた人材の確保に努めるとともに、採用後研修の充実や適切な人事管理等を行います。

また、教職員が自らの資質能力を十分発揮できるよう教職員の健康の保持増進を図ります。

目標指標 (全国値を上回る) ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市 (再掲)	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する児童の割合(小学校)	73.4% (R3)	57.1% 66.0%	54.6% 54.7%			
	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する生徒の割合(中学校)	72.9% (R3)	65.8% 62.3%	64.3% 62.5%			
	国語の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	84.5% (R3)	85.7% 91.7%	86.3% 82.2%			
	国語の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	84.7% (R3)	80.0% 83.8%	82.7% 76.6%			
	算数の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	85.1% (R3)	81.2% 83.0%	82.1% 81.0%			
	数学の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	76.8% (R3)	73.3% 88.6%	75.7% 80.1%			
	<p>□若手・中堅教員研修の充実 教員の指導力向上を図るため、近隣市町と協力し研修会を開催した。 若手研修を初任者のみを対象として8月2日に浅口市中央公民館で開催した。全体で28人の参加があり井原市からも7人の初任者が参加した。また、中堅研修会も同日同会場で行い、全体で30人が参加した。市内からも10人の教員が参加し、ミドルリーダーとしての自覚を高めることができた。</p> <p>□ICT活用研修の充実 スクールタクトの活用について研修を行った。スクールタクトでできることや実際に学校現場で使われている事例を紹介しあい、児童生徒が端末を活用するイメージを共有することができた。</p> <p>□研究指定校による研究発表会（大江幼、西江原小、美星中） 大江幼稚園、西江原小学校、美星中学校において各学校の研究成果を発表した。各学校の園児児童生徒の実態に基づき、思考力向上・学力向上や幼稚園小中学校学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法等についての研究を進めることができた。</p>						
	令和6年度中 における取組 状況と成果						

	<p>□井原市学校教育研究会研修事業の実施 各班において夏季休業中の班会等を開催した。 教職員の自主的な研修を推進することができた。</p> <p>□定期及び要請による学校訪問（岡山型学習指導のスタンダードの徹底） 学校訪問では、児童生徒の確かな学力の習得等のために、学校経営アクションプランの取組や校内研究に対する指導助言を行った。その中で、岡山型学習指導のスタンダードを意識しながら授業改善に取り組むことにも触れ、各校の指導改善に繋げている。</p> <p>□ICT支援員の活用 学校でのICT活用を更に推進するため、授業や研修等において教育のICT活用をサポートする「ICT支援員」を1校につき2週間に1日の勤務割合で配置し、教育活動の充実を図った。 学校HPの更新、教材作成補助、ネットワーク調整、ICT機器の修復等を行った。ICT活用のための有効な支援ができた。 また、ヘルプデスクにより「ICT支援員」の派遣のない日も支援できる体制をとることができた。</p> <p>□教師業務アシスタント配置（常勤6校、兼務12校） 教師業務アシスタントを配置し、指導資料の印刷や、授業の準備および片付け、調査統計作業やデータ入力作業、会議資料や議事録の作成などの「教員が行う事務作業の支援」、さらに、「教育活動に係る事務補助」、「課外活動に係る事務補助」を行った。教師業務アシスタントの配置により、教師が子どもと向き合う時間を確保でき、現在の教育課題である学力向上や問題行動を減少させたりする取組を進めることができた。</p> <p>□教育ネットワークの活用促進 教育ネットワーク（ミライム）の各種機能を使い、学校間の情報共有を図った。また、タイムカード機能を使った勤務時間管理を行った。 各種機能を使って、連絡事項のスムーズな伝達や教材の情報共有等を図ることができた。</p> <p>□校務支援ソフトの活用促進 校務支援ソフトを使い、児童生徒の日ごろの様子について学校全体で情報共有を図ったり、就学先への引継ぎ等に活用したりすることができた。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>若手・中堅教員研修の充実 近隣市町合同の研修会にとどまらず、井原市独自の研修会を実施して、一層の指導力向上やネットワークづくりを進める。</p> <p>ICT活用研修の充実 市内における1人1台端末活用の好事例を収集し、共有を図る研修を実施する。</p>

	I C T支援員の活用 GIGAスクール構想による1人1台端末を含めたICT機器を効果的に活用した学習活動を継続するために、十分な知識を備えたICT支援員の配備が維持されるよう効果的に取り組んでいく。
有識者による 評価意見等	教師力の向上 目標指標の全国値を下回る項目について、基礎学力の向上及び家庭学習の定着への取り組みに注力していただきたい。また教職員及び組織力向上のため、教職員の方には多種多様な研修に参加していただき、研鑽に努めてもらいたい。

1－（６）社会に開かれた教育課程の実現によるワーク＆ライフキャリア教育の推進と井原“志”民力の育成

子どもたちが地域で活躍している大人たちとの「出逢い」や「対話」を通し、魅力的な生き方について、子どもも大人も共に考えるとともに、自他の幸福や持続可能な地域の実現に向けて、今の自分にできることやこれから進むべき道について学び・考え・実践を図ります。

目標指標 （全国値を上回る） ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	将来の夢や希望を持っていますか。 （小学生）	78.0% （R3）	81.9% 85.6%	82.4% 79.9%			
	将来の夢や希望を持っていますか。 （中学生）	75.6% （R3）	66.3% 67.2%	66.3% 65.1%			
	地域や社会をよくするために何かを してみたいと思う。（小学生）	53.4% （R3）	76.8% 86.7%	83.5% 81.7%			
	地域や社会をよくするために何か してみたいと思う。（中学生）	46.4% （R3）	63.9% 65.6%	76.1% 66.2%			
	□地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進 市内全小学校区（13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む）に地域と学校が連携し、地域全体（地域住民、多様な機関・団体等の参画）で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して5年目を迎えた。各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学校区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充することで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。また、市内17小中高等学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、ひとづくりネットワークとの一体的推進をめざした取組が実施されている。						
	□「ふるさと教育」「起業家教育」の視点を入れたカリキュラム・マネジメントの推進 市内幼小中高の教職員を対象に、「ふるさと教育」及び「起業家教育」の視点を取り入れた総合的な学習の時間の取組を中心とした教育課程の在り方を検討するための研修会を開催した。各校や地域の実態に応じてふるさと「もの」「ひと」「しごと」に出逢い、関わる活動を積極的に取り入れるとともに、本市として取り組むべき「共通探究課題・素材」を設定することで、より意図的・系統的な総合的な学習の時間の年間計画及び単元計画作成に向けた契機となり、多くの好事例が生まれている。 ・井原市カリキュラム・マネジメント研修会…3回						

	<p>□「非認知能力」育成プログラムの導入</p> <p>地域キャストや友達の話参考をしながら自分の強みを見直したり今後の目標を立てたりすることで自己肯定感や意欲等の向上を図る Ancs プログラムの実施、幼稚園において井原デニムを活用した非認知能力育成プログラムの開発・導入を進めた。</p> <p>Ancs プログラムについては、原則として市内全小学校（複式学級は隔年）において実施することができ、多くの学校において担任によるファシリテートが行われるようになったことでプログラムの主体的実施に向けた体制整備が進むとともに、アセスメントシートの結果や体験した園児児童生徒・教職員の感想からプログラムの有効性を強く感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・aeru school 井原版 12幼 ・aeru school 井原版実践報告会1回 ・Ancs プログラム 10小（6年）、1高（1年） ・ファシリテーション力向上研修会1回 ・ワーク&ライフ交流会 5中（1年もしくは2年） ・各校園における「非認知能力」に関する校内研修支援 <p>□ワーク&ライフキャリア教育の充実（中1パスカード、中2ワーク&ライフ職場体験、中3高校調べ、キャリア・パスポートいばら版の活用）</p> <p>中学校1年生でパスカードによる進路適性検査、2年生でワーク&ライフ職場体験、3年生で高校についての調べ学習を行った。3年間を見通した系統的な取組を行うことで確かな職業観と豊かな人生観を育み、社会的・職業的自立に必要な能力の育成を図った。各学年の取組が、自らの将来について向き合うきっかけとなり、進路についての理解を深めることができた。</p>
課題と対応策	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進</p> <p>本事業も6年目を迎え、各学校区において「ふるさと教育」や「起業家教育」の視点を取り入れた学習活動や地域活動が定着しつつある。今後は、新たにコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入した小中高等学校の取組を基盤にしつつ、既存のひとづくりネットワークとの一体的な推進を意図的に図りながら、令和7年度の市内全小中高等学校における導入完了をめざして準備を進めたい。</p> <p>「ふるさと教育」「起業家教育」の視点を入れたカリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>各校において、本事業の趣旨を取り入れた学習活動が総合的な学習の時間に積極的に位置づけられ、定着しつつある。今後は、総合的な学習の時間に留まることなく、他教科等の学習においても、総合的な学習の時間の取組で培った手法や工夫を横展開し、井原“志”民力（学びに向かう力・人間性等）を意識した授業改善や各校のミドルリーダー育成が一層進むよう、研修の在り方についても検討を進めていきたい。</p>

有識者による 評価意見等	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進</p> <p>「ふるさと教育」及び「起業家教育」など地域と連携した様々な活動が継続して行われている。今後も子どもたちがふるさと井原に愛着を持てる学習活動を効果的に継続して行っていただきたい。</p> <p>また、コミュニティ・スクールとひとづくりネットワークとの一体的な推進に努めていただきたい。</p>
-----------------	---

2. 心と体を育てる教育の充実

2－（１）心の教育の推進	
<p>自然、歴史、伝統、民俗、文化、人物など地域の特性に根ざした学習を学校の教育活動全体を通じて行い、子どもたちが生まれ育った地域への理解を深めることにより、郷土愛の醸成を図り、ふるさとといばらの未来を創る人材の育成につなげます。</p>	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□地域教材を活用した道徳教育の推進 郷土の偉人等を題材とした教材を用い、児童生徒の実態に合わせ工夫して授業に活用するよう指導した。総合的な学習の時間とも関連を図り、地域の魅力、井原市の魅力について考え、まとめたことを「おかやま学びたい賞」で発信することができた。</p> <p>□学校司書の配置と読書活動の推進 学校図書館司書9人を配置し、自主研修活動を実施した。 内容：図書の管理、推薦図書の紹介方法等。児童生徒への広報活動、朝読書の取組の充実、読書の時間の確保、家庭読書の充実等を各学校に呼びかけた。 司書同士の情報交換を行い、図書館教育の充実を図ることができた。</p> <p>□人権教育担当者研修会の開催 令和6年11月28日に「人権教育担当者研修会」を開催し、自殺予防教育学習プログラムについて理解を深めた。自己肯定感の向上、自他の尊重、多様性の尊重、困っている人への支援など、一人一人を大切にするという人権尊重の考え方を基盤にして、これからの教育活動の充実を図った。</p> <p>□情報モラルに関する指導の充実 県総合教育センター、県義務教育課等が作成した資料等を配布し、指導を徹底した。</p> <p>□体験活動の充実（地域学校協働活動を含む） ふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢い、関わりながら、ふるさと井原の魅力や課題を知ったり、魅力拡大や課題解決に取り組んだりする学習活動や地域活動を積極的に導入・実施することで体験活動の充実を図ることができた。</p>
課題と対応策	<p>情報モラルに関する指導の充実 保護者や地域にも情報モラルに関する理解の向上と、メディアと適切に関わることができるよう、より一層連携し、指導していく必要がある。</p>
有識者による評価意見等	<p>学校司書の配置と読書活動の推進 今後も学校司書の継続した配置により、学校図書館の蔵書の充実や児童生徒への広報活動、読書支援や授業連携を推進してもらいたい。</p> <p>情報モラルに関する指導の充実 引き続き、連携して指導を行っていただきたい。</p>

2-(2) 健やかな体力づくりの推進

学校での体育の充実を図るとともに、健康教育の推進を通して子どもたちが望ましい生活習慣を身に付けることにより、生涯にわたりたくましく生きるための健康・体力づくりを推進します。

令和6年度中における取組状況と成果	<p>□体力づくり推進事業</p> <p>小中学校全校で実施。その結果を各校で分析し、課題を明らかにし、体力向上の取り組みを行った。業間運動、岡山県主催の「チャレンジランキング」「体力アップ・マイベストチャレンジ!」への参加等、各校で自主的な取組を行った。幼稚園は4園、小学校は5校、中学校は1校が県内で上位に入賞し、表彰された。</p> <p>□健康づくり優良児童生徒表彰</p> <p>健康づくりに努力している児童生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校10人、中学校0人 計10人を表彰。児童生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。</p> <p>□いばらっ子生活リズム向上プロジェクト</p> <p>市内の保幼小中高を対象に実施した生活調査結果のフィードバック、生活リズム向上に関する各校園の年間取組計画の作成支援、教職員・保護者等を対象にした研修会の開催支援、啓発資料の配付等を通して、各学校園や家庭での生活習慣改善を促した。主テーマを「よく動く」と設定し、元環太平洋大学中尾教授との連携を進め、各校園での取組を支援したほか、県教育委員会が実施している「みんなでチャレンジランキング」への積極的な参加を呼び掛けた。</p> <p>生活習慣に対する関心が高まり、「よく動く」子どもの育成に向けた各校園での実践が広がり、定着が見られる。</p>
課題と対応策	<p>体力づくり推進事業</p> <p>「チャレンジランキング」等の取組において、熱中症対策として、活動場所において暑さ指数(WBGT)が31以上の場合は、運動を原則、中止にしている関係で、夏季においてほぼ毎日、業間休みや昼休みに運動が制限されている。年間を通じて行うことが難しいため、重点的に取り組む期間等の設定を検討する必要がある。また、各校の実態に合わせた種目を選ぶことも必要となる。</p>
有識者による評価意見等	<p>体力づくり推進事業</p> <p>近年の猛暑により、子どもたちも自由に遊んだり、活動したり出来なくなっている。暑さ指数(WBGT)の確認を徹底していただき、熱中症などの事故がないように細心の注意を払いながら、適切な指導をお願いする。</p>

2-(3) 不登校対策と生徒指導の充実

子どもたちが落ち着いた環境で意欲的に学ぶことができるよう、学習の基礎となる学級集団づくりを進めます。また、個々に応じた学習支援・生徒指導のためには、子どもと向き合う時間の確保が必要なことから、教職員の働き方改革を推進します。

不登校の未然防止と早期対応に向けて、SC、SSWを含めた組織体制の確立を進めるとともに、教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」を拠点に、不登校児童生徒の学校復帰を図ります。

目標指標 (全国値を下回る) ※対象年度の数値 上段が全国値 下段が井原市	内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9
	不登校の出現率 (小学校)	1.70%	2.14%	2.30%			
		1.66%	2.06%	1.46%			
	不登校の出現率 (中学校)	5.98%	6.71%	6.79%			
		4.86%	4.61%	6.54%			
令和6年度中 における取組 状況と成果	<p>□不登校児童生徒の教育支援対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」において、不登校児童生徒に教育支援を行った。小学生10人、中学生17人が通室した。 （スクールカウンセラー配置事業） ・県の事業により、スクールカウンセラーを全小中学校に配置した。 （スクールサポーター配置事業（中学校）） ・スクールサポーター3人を配置し、中学校5校の生徒の教育相談、教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」との連絡調整等に当たった。 （訪問カウンセリング事業） ・訪問カウンセラー1人を配置し、学校や不登校傾向をもつと思われる児童生徒の家庭等を必要に応じて訪問し、指導を行い、不登校の未然防止に努めた。 （問題行動対策コーディネーター配置事業） ・問題行動対策コーディネーター1人を配置し、学校や教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」、その他関係機関との連携強化を図り、不登校児童生徒の自立を支援した。 （登校支援員・別室支援員配置事業） ・別室支援員を配置し、不登校傾向のある児童の登校支援や学習支援、保護者等に対する相談支援を、教職員と協力しながら行った。 <p style="text-align: right;">（高屋小、大江小、西江原小、井原小、出部小）</p> <p>不登校児童生徒の出現率は、小学校は減少した。しかし、長期欠席・不登校は本市における生徒指導上の一番の課題であり、未然防止に向け学校や関係機関と連絡を取りながら課題解決に向けた取組を行った。</p> <p>（不登校対策別室指導実践研究）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立応援室専属の教員を、本務校を木之子中学校、兼務校を井原中学校として配置し、教室に入りにくい生徒のための専用の教室で、自立応援室支援員とともに生徒の生活支援・学習支援を行った。個々に学力保障をするなど、個別の課題に対応した。中学校の長期欠席・不登校の出現率は増加しているが、未然防止につながっており、令和6年度は、2校あわせて22人の生徒が利用した。 						

	<p>□落ち着いた学級づくり支援事業の充実</p> <p>年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の人間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。</p> <p>調査結果から支援の必要な児童生徒を把握することで、改善に向けた対策を個別に講じることができた。</p> <p>□ネットとスマホの利用改善の推進</p> <p>スマホ・ネットに関する保護者向け啓発チラシを配布するなどし、保護者に対して意識の向上を図った。学校では、児童生徒の自主的なルールづくりを行い、家庭でのルールづくりも進めるよう努めた。児童生徒にルールづくりの必要性について考えさせた。保護者向けの研修会を各校園で行い、利用時間のルールづくりの啓発を行うことができた。</p> <p>□いじめ問題対策連絡協議会の開催</p> <p>令和6年5月27日に「井原市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関といじめ問題について共通理解を図った。各校の事案ごとに、学校・関係機関等と連携しながら対応し、それぞれ解消に向け取り組むことができた。</p> <p>□児童虐待の防止（井原市要保護児童対策地域協議会との連携）</p> <p>学校、子育て支援課、児童相談所等と連絡や協議を行いながら児童虐待の防止に努めた。</p> <p>□ヤングケアラーへの対応（関係機関との連携）</p> <p>本市において、ヤングケアラーとして、過度に負担を感じている児童生徒の報告は受けていない。相談しやすい雰囲気づくりを前提に、各校で行っている個別の教育相談や生活ノートによる児童生徒からの訴え等によるものなどから、学校生活の小さな変化を見逃さないよう児童生徒観察を注意深く行った。また、学校、子育て支援課、児童相談所等との連絡を図りながら、早期発見に努める。</p>
課題と対応策	<p>不登校児童生徒の教育支援対策事業</p> <p>学校で子どもたちが自分の居場所があると感じられる発達支持的生徒指導を行うことで未然防止に努め、各関係機関と連携を図りながら不登校出現率が昨年度以下になることを目指す。</p> <p>不登校児童生徒に対しては引き続き教育支援センター(適応指導教室)「大山塾」等の関係機関と連携を取り、学校への復帰を目指す。</p>
有識者による 評価意見等	<p>不登校児童生徒の教育支援対策事業</p> <p>教職員をはじめ関係者の方の尽力により、全国値を下回っている。今後もコーディネーターやカウンセラーなどを有効に活用して、未然防止に努めていただきたい。</p> <p>また、教育支援センター(大山塾)などの関係機関と引き続き連携を図りながら、教育支援を行ってほしい。</p>

2-(4) 基本的生活習慣の定着

子どもたちが災害に適切に対応できる実践的な態度や能力を養うため、防災教育や避難訓練の充実を図るとともに、防犯教室の開催等により児童生徒の危険回避能力を高める取組を進めます。

学校給食センターと連携して食育の推進を図り、子どもたちが生涯にわたりたくましく生きるための健康・体力づくりを進めます。

	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
目標指標 ※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	毎日朝食を食べている小学生の割合	94.6% (R3)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
			94.0%	92.9%			
	毎日朝食を食べている中学生の割合	88.9% (R3)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
			87.1%	88.4%			
令和6年度中 における取組 状況と成果	□防災教育の推進 学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。 各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識の高揚に効果があった。						
	□交通安全教育の充実 各校・園において交通安全教室を年間2回程度実施し、幼児・児童・生徒の交通安全意識の向上を図った。事故件数は15件だった。						
	□防犯意識の高揚と啓発活動 各校・園において防犯教室を年間1～2回実施した。 幼児・児童・生徒の防犯意識の向上が図られた。						
	□薬物乱用防止教育等の推進 各校において、警察職員等を講師とした薬物乱用防止教室を実施した。 計画的に実施しており、定着化を進めることができている。						
	□栄養教諭による食育の推進 学校給食センターは栄養教諭2人体制、美星調理場は栄養教諭1人体制で、積極的に学校へ出向き、給食を活用した食に関する指導を行い、食育の推進を図った。給食を生きた教材として、食育指導を実践し児童・生徒に効果的な指導を行うことができた。						
	□学校給食における食物アレルギーへの対応 食物アレルギー調査を実施し、除去食の提供や、アレルギー記載予定献立表の作成及び教育委員会ホームページでの掲載を実施した。食物アレルギー対応マニュアルに基づいた対応を進めるため、各校との共通理解を図った。						

	<p>□食育講座の開催 学校園での保護者を対象とした試食会及び園児・児童・保護者を対象とした調理場見学会を開催した。</p>
課題と対応策	<p>交通安全教育の充実 事故発生件数は前年度と比べて増加した。事故発生原因の割合として、自転車による飛び出しが多いため、引き続き安全教育の充実を図るとともに、努力義務化されているヘルメット着用の啓発を継続して行う必要がある。</p> <p>学校給食における食物アレルギーへの対応 井原市学校給食等における食物アレルギー対応方針について、教職員・保護者・医師・給食関係者等がより共通理解を深められるよう、研修等を継続して行う。</p> <p>食育講座の開催 各学校園と協議を行いながら、試食会及び見学会の実施回数の増加に努める。</p>
有識者による 評価意見等	<p>交通安全教育の充実 交通ルールやヘルメットの重要性などの交通安全の教育については、重大事故防止の観点からも小学生の早い段階で保護者も一緒に行えるような取り組みを考えていただきたい。</p> <p>薬物乱用防止教育等の推進 薬物使用の若年化が進んでおり、児童生徒のリスク認識向上のためにも、最新の情報を取り入れながら、継続して取り組んでもらいたい。</p> <p>栄養教諭による食育の推進 食の指導の中で、残菜の量が減少するような取り組みを継続して行ってもらいたい。</p>

3. 学校・家庭・地域の連携による人づくり

3－（１）郷土愛の醸成・非認知能力の育成	
地域住民の参画による学校教育支援、放課後等の活動支援、家庭教育支援を効果的に推進し、地域・社会全体で子どもを健やかに育む機運の向上と体制の整備を進めます。	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原魅力発見事業 （小6：平櫛田中美術館・古代まほろば館見学、小4：美星天文台・デニム工場見学等） 児童を対象に、平櫛田中美術館の見学や古代まほろば館での体験学習、美星天文台の見学と井原市主要産業（井原デニム）工場見学等を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通した道徳性の育成を図った。各校は工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。活動前には目的について事前指導を行い、活動後は振り返りを行い、自分たちの大きな成長を確認できた。 ・実施校 小6：11校（野上小・青野小以外） 小4：11校（野上小・青野小以外）</p> <p>□スポーツふれあい交流事業「夢の教室」（小5） 夢をかなえるために努力した日本のトップアスリートを「夢先生」として派遣し、夢を持つことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さ等を学ばせた。児童はトップアスリートに接することで、夢を持つことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。 ・実施校、コマ数・・・9校（稲倉小・県主小・野上小・青野小以外）、8コマ</p>
課題と対応策	<p>スポーツふれあい交流事業「夢の教室」 児童数の減少に伴い、複数校での合同開催など、より効果的な実施を進めていくことが必要である。</p>
有識者による評価意見等	<p>スポーツふれあい交流事業「夢の教室」 世界レベルの技を見せてくれたり、アスリートが夢に向かって努力し続けることの大切さなどを語ってくれたりする場を、体験することができる機会は、児童への良い経験となっていると思いますので、工夫しながら継続して実施していただきたい。</p>

3-(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化

子どもたちの教育を取り巻く環境が大きく変化するなか、学校・家庭及び地域がそれぞれの役割を自覚し、連携のもと教育効果が高められるよう、学校や教育委員会が行う取組の情報提供を進めます。

令和6年度中
における取組
状況と成果

□地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進 (地域での学習支援活動・学校支援ボランティアの活用)

市内全小学校区(13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む)に地域と学校が連携し、地域全体(地域住民、多様な機関・団体等の参画)で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して5年目を迎えた。各学区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充するとともに、市内17小中高等学校に導入が広がったコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)との一体的推進を進めることで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。

・各学区ひとづくりネットワーク運営協議会…(実態に応じて)1~7回

※学校運営協議会を含む

・各学区ひとづくりネットワーク懇談会…(実態に応じて)0~5回

※学校運営協議会熟議を含む

・井原市ひとづくりネットワーク運営協議会…2回

・井原市ひとづくりネットワーク懇談会…1回

・地域による学習支援活動…5小学校区 ※謝金支払申請があった小学校区数

・地域学校協働活動参加者数…3,958名 ※市内19小中高等学校合計

・コミュニティ・スクール…荏原小・高屋中を除く市内17小中高等学校

※芳井小・芳井中、美星小・美星中は合同協議会

□ワーク&ライフ職場体験及びインターンシップ等の実施

地域社会と連携した生徒の育成を目指し、中学校第2学年を対象とした「ワーク&ライフ職場体験」および井原市立高等学校第3学年を対象とした「インターンシップ」を実施した。

生徒が実際に働く現場を体験することを通して、将来への展望を拓き、社会の一員としての自覚を高めることができた。

□学校運営協議会の設置

学校運営協議会を設置した学校が小学校12校、中学校4校となり、保護者や地域の関係者が一定の権限をもち学校運営に参画することで、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組が進んでいる。

	<p>□部活動の地域移行の推進</p> <p>木之子中学校卓球部、木之子中学校バレーボール部、井原中学校バドミントン部にそれぞれ部活動指導員を配置した。部活動における指導の充実、教員の負担軽減が図られた。新入生説明会で井原地域クラブネットワークの紹介を行った。</p> <p>□教育広報紙（ともなび）の発刊</p> <p>学力・学習状況調査の結果や文化・スポーツ関連行事の様子など、本市の教育の現状など様々な情報を発信することができた。</p> <p>■学校ホームページの充実</p> <p>すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、各種情報を提供することになっているが、細やかな更新には至っていない。</p>
課題と対応策	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進</p> <p>本事業も5年目を迎え、各学校区において「ふるさと教育」や「起業家教育」の視点を取り入れた学習活動や地域活動が定着しつつある。今後は、新たにコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入した小中高等学校の取組を基盤にしつつ、既存のひとづくりネットワークとの一体的な推進を意図的に図りながら、令和7年度の市内全小中高等学校における導入完了をめざして準備を進めたい。</p> <p>学校ホームページの充実</p> <p>保護者や地域の方に学校の取組を理解してもらえよう、魅力的なホームページの作成に努める必要がある。また、情報提供が適宜行えるよう、適時の更新に努めていく必要がある。</p>
有識者による 評価意見等	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進</p> <p>地域間で活動の内容にバラツキがあるように感じている。いずれの地区においても同等の活動が行われるよう、助言や支援をお願いしたい。</p>

2. 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習

(生涯学習・社会教育の充実)

1. 学校・家庭・地域の連携による人づくり

1－(1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成

変化が激しく、予測が困難な今、そして未来を、自分らしく、幸せに生き抜くためには、与えられる知識・技能、価値観を受け入れて蓄積するだけの受動的な資質・能力だけではなく、身に付けた知識・技能を駆使して多様な人々と協働しながら課題を克服したり新たな価値観を創り出したりする能動的な生き方につながる資質・能力が不可欠です。

そのためにも、子どもも大人も生まれ育ったふるさとを心の拠り所とし、自分らしさや地域らしさを認識したり、働くことや生きること、自他の幸せの在り方を考えたりする機会や、個々の能力を発揮してよりよい未来の実現に主体的に関わることでできる場づくりを通して、郷土愛の醸成や非認知能力の育成を進めていくことは、社会の重要なミッションと言えます。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	将来の夢や目標を持つ小学生の割合(肯定率)	78.0% (R3)	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%
			85.6%	79.9%			
	将来の夢や目標を持つ中学生の割合(肯定率)	75.6% (R3)	76.0%	76.0%	76.0%	76.0%	76.0%
			67.2%	65.1%			

令和6年度中 における取組 状況と成果

□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】

自分とふるさと井原を愛し、よりよい未来のために実行できる人財『井原“志”民』の育成に向け、『ワーク&ライフキャリア教育』の推進による『井原“志”民力』の向上をめざし、学校教育・社会教育の横のつながりと、就学前教育から義務教育、さらには高校教育や大学教育の縦のつながりを一層意識しつつ、「家庭教育の支援」と「読書活動の推進」を整理・統合した6つの柱に掲げる取組を促進してきた。

市内全小学校区(13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む)に地域と学校が連携し、地域全体(地域住民、多様な機関・団体等の参画)で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して5年目を迎えた。各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学校区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充するとともに、市内17小中高等学校に導入が広がったコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)との一体的推進を進めることで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。

また、令和6年度の実行委員会テーマを「若者に選ばれるまちづくり(ひとづくり)」と掲げ、新たに『ふるさと井原“夢&志”アクション助成』を創設するなど若者を対象とした「夢&志づくり応援活動」の拡充を図るとともに、地元企業・事業所との連携による地場産業魅力発信プログラムの開発・導入を進め、井原商工会議所企業ブラ

	<p>ンディング委員会との連携により「井原おしごと探検ツアー」と「井原おしごと体験フェス」を初開催した。</p> <p>さらに、関連事業（未来を担うひとづくり推進事業⑥）として『地域力創造アドバイザー活用によるブランディング事業』を導入することで、前述の夢&志づくり応援活動や地場産業魅力発信プログラムの拡充を図るとともに、地元事業所に対する伴走型リブランディング支援を行うことで、大人（企業人）に対するひとづくりの推進を図った。</p> <p>◎柱１：ひとづくりのまち「井原」の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市ひとづくり推進本部の開催…１回 ・井原市ひとづくり実行委員会の開催…３回 ・井原市まち&ひとづくりフェスタの開催…１回 ・井原“志”民力等調査の実施…１回（小学４年生以上の児童生徒） ・本事業に係るホームページ及びリーフレットの作成・周知 ・井原“志”民塾・公開講座の開講 <ul style="list-style-type: none"> …７講座（全リアル開催）のべ５２８人参加 ・夢&志づくり応援活動 <ul style="list-style-type: none"> ◇夢&志づくり応援 Laboratory『ゆめここ☆ラボ@井原』の実施（組織化） <ul style="list-style-type: none"> …メンバー１９名（大学生：７名、社会人：６名、賛同人：６名）※R7.3.31 現在 ◇中高生を中心とした井原市公認ふるさと井原魅力化団体『Team 夢源♡井原』の運営 <ul style="list-style-type: none"> …夢源 Makers（中高生）…R6年度末現在登録者数１人 夢源 Supporters（大学生・一般）…R6年度末現在登録者数４５人 ◇井原 Lovers 登録者数（R6 年度末現在）…１０２人 ◇「ふるさと井原“夢&志”アクション助成の創設 <ul style="list-style-type: none"> …４組の申請に対し４件助成（高校生２組、大学生１組、一般１組） R7.3.21（金）に活動報告会を開催 ◇「ユースセンターいばら（仮称）の開設 <ul style="list-style-type: none"> …井原市ひとづくりコーディネーター（地域おこし協力隊）事務所を開放する形で高校生を中心とした若者のサードプレイスを運営 ・コノユビトマレ合宿の開催 <ul style="list-style-type: none"> …R6.5.25（土）～26（日）星の郷ふれあいセンター ５２名参加 <p>◎柱２：社会に開かれた教育課程の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市カリキュラムマネジメント研修会の開催…３回 ・岡山県教育委員会主催「おかやま学びたい賞」に学習活動を出品 <ul style="list-style-type: none"> ◇優秀賞：県主小 ◇奨励賞：井原小、木之子中、美星中、芳井中
--	---

	<p>・ワーク&ライフ職場体験の実施</p> <p>◇事業所に出向いての職場体験…5中学校全2年生対象、受入延べ117事業者</p> <p>◇ワーク&ライフ交流会の実施(ゲストを招聘しての対話・交流会)</p> <p>…5中学校1年生もしくは2年生対象、地域キャスト延べ59人参加</p> <p>・非認知能力育成プログラムの導入・実施</p> <p>◇aeru school井原版…12幼稚園</p> <p>◇aeru school 井原版実践報告会…1回</p> <p>◇Ancs プログラム…10小学校(6年)、1高校(1年)</p> <p>◇ファシリテーション力向上研修会…1回</p> <p>◎柱3：地域社会・企業との連携</p> <p>・地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進</p> <p>◇各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会…(実態に応じて)1～7回</p> <p>※学校運営協議会を含む</p> <p>◇各学校区ひとづくりネットワーク懇談会…(実態に応じて)0～5回</p> <p>※学校運営協議会熟議を含む</p> <p>◇井原市ひとづくりネットワーク運営協議会…2回</p> <p>◇井原市ひとづくりネットワーク懇談会…1回</p> <p>◇地域による学習支援活動…5小学校区 ※謝金支払申請があった小学校区数</p> <p>◇地域学校協働活動参加者数…3,958名 ※市内19小中高等学校合計</p> <p>◇コミュニティ・スクール…荏原小・高屋中を除く市内17小中高等学校</p> <p>※芳井小・芳井中、美星小・美星中は合同協議会</p> <p>圃地元企業・事業所との連携による地場産業魅力発信プログラムの開発・導入</p> <p>◇井原おしごと探検ツアー</p> <p>…R6.7.30(火)フェニテックセミコンダクター株式会社、株式会社共和铸造所、片山工業株式会社</p> <p>小学生及び保護者14組・計33名参加</p> <p>◇井原おしごと体験フェス</p> <p>…R6.8.10(土)芳井生涯学習センター</p> <p>出展(店):29事業所・39ブース ※飲食ブースを含む</p> <p>200組・600名以上参加</p> <p>◎柱4：高等学校・大学との連携促進</p> <p>・市内3高校との連携促進・魅力化支援</p> <p>◇主な活動</p> <p>○井原市立高校総合的な探究の時間等の支援</p> <p>⇒井原市ひとづくりコーディネーター派遣(原則週1回)</p> <p>○県立井原高等学校総合的な探究の時間等の支援</p> <p>⇒1年生『デニム学』(企画・進行、地域キャスト選定・派遣)</p>
--	---

	<p>・大学との連携促進</p> <p>◇岡山大学教養科目『地域の未来デザイン』開講支援</p> <p>○座学編(受講生113人)</p> <p>…学生が井原市を題材に地域創生を学び、井原市の魅力拡大や課題解決策の案をまとめて企画プレゼンテーションを実施</p> <p>○実践編(受講生15人)</p> <p>…岡山大学他4国立大学学生が本市を訪れ、市内のフィールドワーク、市民や県立井原高校生との交流等を実施</p> <p>◎柱5：家庭教育の支援</p> <p>・子育て支援体制の整備(学校園、公民館、子育て支援課、健康医療課及び市民ボランティア等との連携・協力(井原子育てネットワーク協議会))</p> <p>子育てネットワーク協議会を年2回開催し、ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの活動支援等について協議し、企画・運営を行った。いくつかの子育て支援事業では、福祉部局等と教育委員会が連携して開催することができた。</p> <p>◇子育てサポーター登録者数 29人</p> <p>◇託児件数 13件</p> <p>・子育てに関する学習機会の拡充</p> <p>◇妊娠期子育て講座 4回 参加者延べ 15人(内妊婦9人)</p> <p>◇幼児期子育て講座 16回 参加者延べ 552人</p> <p>◇学童期子育て講座 19回 参加者延べ 1,145人</p> <p>◇思春期子育て講座 1回 参加者 56人</p> <p>◇その他の機会を活用した子育て講座 年2回 参加者延べ26組</p> <p>各校園やPTA、福祉部局の事業において、ライフステージの課題に応じた子育て講座が開催された。</p> <p>・親育ち応援学習プログラムの活用と推進</p> <p>幼稚園2園、小学校3校、中学校1校において親育ち応援学習プログラムを実施し、参加者が交流しながら子育てについて学び合う機会を提供することができた。</p> <p>・子育てイベントの実施</p> <p>子育てイベント「とらまる人形劇団がやってくる!親子で人形劇を楽しもう!」を開催した。</p> <p>・家庭教育学級(中央・各地区)、幼児教育学級、婦人学級等の支援</p> <p>中央家庭教育学級では、くらしと人権講座と兼ねる形で学習会を行い、親として子どもの自立に向けた学習と学級運営に必要な知識・技術を高めるための学習を行った。各地区の学級では、伝統を守りつつ新しい考えも取り入れた活動が行われている。しかし少子化・負担感・価値観・意欲の減退等による参加者の減少により活動が休止となっている学級がある。負担感を軽減するための運営の助言や情報提供を行った。</p>
--	---

	<p>◎柱６：読書活動の推進</p> <p>第5次井原市子ども読書活動推進計画の策定</p> <p>・第4次井原市子ども読書活動推進計画に基づく事業の推進</p> <p>読み聞かせボランティア講座 全5回開催 延べ98人参加</p> <p>絵本への興味を高め、またボランティアの資質向上を図ることができた。</p> <p>年齢別絵本ガイドを530部作成し、児童会館など子育て関連施設に配付。</p> <p>ブックスタート事業として4か月児健康診査の際にブックスタートバッグを160人に贈呈。絵本を介して、ふれあいと読書のきっかけをつくった。</p> <p>またフォローアップとして、2歳児健康診査の際に208人に読書手帳を手渡しするセカンドブック事業を実施した。</p>
課題と対応策	<p>ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業</p> <p>井原市ひとづくり実行委員会の令和6年度活動テーマを『若者に選ばれるまちづくり(ひとづくり)』とし、その中の一つとして、若者の夢や志の実現を支える環境づくりを進めるため、新たに『“夢&志”アクション助成』を創設したところ、4組の申請をいただき、よりよい未来の実現に向けたチャレンジを支援することができたが、募集予定数(10組)には届いていなかったため、情報発信や若者がチャレンジしやすくなる環境づくり等を工夫していく必要がある。</p> <p>また、今後も、より一層「ウェルビーイング」の視点を取り入れながら、多くのステークホルダーとの連携を強化しつつ、本市の魅力拡大・課題解決に向けた取組や若者のニーズに応じた取組を継続・拡充し、若者に選ばれるまちとしての環境整備及び発信を図っていく必要がある。</p>
有識者による 評価意見等	<p>ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業</p> <p>◎柱１：ひとづくりのまち「井原」の発信</p> <p>ふるさと井原魅力化団体『Team 夢源♡井原』の活動は良い取り組みだと思うが、夢源 Makers(中高生)の登録者数が減少傾向にあるため、登録者の増加に努めてもらいたい。</p> <p>◎柱３：地域社会・企業との連携</p> <p>令和6年度に開催された「井原おしごと探検ツアー」「井原おしごと体験フェス」は大勢の方の参加があり、盛大に開催されたと思う。今後も継続して実施していただきたい。</p> <p>◎柱６：読書活動の推進</p> <p>読み聞かせボランティアの活動は学校もすごく助かっていると聞く。引き続き、ボランティアの確保に努めるとともに、資質向上を図り、より活動を充実させていただきたい。</p>

1－（２）学校・家庭・地域の連携協働体制の強化

人口減少や少子高齢化、人口の都市一極集中による地方の過疎化が進む中、地方においては持続可能なまちづくりを支える人づくりが最重要課題のひとつです。

そのような人づくりは、学校教育のみで実現できるものではなく、学校・家庭・地域が、共通の目標である「ふるさと未来像」に基づいた「目指す子ども像」の実現に向け、それぞれのあるべき姿や果たすべき役割を明確にしながら、『地域とともにある学校づくり』及び『学校（子ども）を核とした地域づくり』を両輪としてとらえ、地域総ぐるみで未来を創る子どもたちの成長を支える連携・協働体制（ネットワーク）の構築が不可欠です。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	コミュニティ・スク ール 導入校数	0 校 (R3)	—	—	19 校	19 校	19 校
			6 校	17校			
	放課後子ども教 室 実施学区数	9 学区 (R3)	13 学区	13 学区	13 学区	13 学区	13 学区
			9 学区	8学区			
令和6年度中 における取組 状況と成果	□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】 ◎柱2) 社会に開かれた教育課程の実現（再掲） ◎柱3) 地域社会・企業との連携促進（再掲） ◎柱4) 高等学校・大学との連携促進（再掲） ◎柱5) 家庭教育の支援（再掲） ◎柱6) 読書活動の推進（再掲）						
	□放課後子ども教室事業の実施【未来を担うひとづくり推進事業②】 地域の参画により子どもたちの居場所を作り、スポーツや体験活動などの事業を 実施（8団体）。各地区、子どもたちの健全育成を図ることができた。						
	□新地域力創造アドバイザー活用によるブランディング事業の実施 【未来を担うひとづくり推進事業⑥】 総務省「外部専門家（地域力創造アドバイザー）制度」を活用し、地域力創造アド バイザーを招聘したブランディング支援を実施することで、地場産業の魅力や可能性 を再発見する機会の設定や、若者たちの夢や目標の実現に向けたプランやアクショ ンを支援する体制の整備を通して、地場産業の魅力拡大や課題解決、若者たちの自 己実現やキャリア形成の一助となるよう取組を推進した。						
	◎企業ブランディング委員会への助言 ・「井原おしごと探検ツアー」（R6.7.31）や「井原おしごと体験フェス」（R6.8.10） の企画・運営支援						
	◎地元事業所への伴走型リブランディング支援 ・株式会社共和鋳造所への伴走型リブランディング支援（計8回） ◎若者のチャレンジに対する助言 ・ふるさと井原「“夢＆志”アクション助成」報告会（R7.3.21）における指導講評						

□井原市連合少年団協議会の活動支援

主催事業として「連少デイキャンプ大会」を行い、児童98人が参加した。
また、「少年レクリエーション大会」も行い、179人が参加した。

□美星っ子づくり協議会の活動支援

美星地区の子どもの健全育成を目的として、星の子読書フェスティバル、美星っ子夢フェスティバル、星の郷ワクワク体験クラブ、美星っ子こめっこクラブを実施した。
それぞれ来場者は220人、180人、32人、26人で、地域として子どもたちの活動を支援した。

□友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施

3日間の日程で、魚津市への訪問及び大田原市の児童の歓迎を行った。
魚津市（訪問） 井原市児童20人、魚津市児童20人 参加
大田原市（歓迎） 井原市児童19人、大田原市児童16人 参加

□二十歳のつどいの実施

式典と記念行事を実施し、二十歳の対象者277人の参加があった。
（出席率 78.9%）

□地区青少年を育てる会等の活動支援

市内13地区において、それぞれの特色を生かした取り組み（子どもの見守り、危険箇所の点検、青少年と高齢者との交流等）が行われており、これらの活動を支援した。

□青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進

青少年育成センターでは、青少年健全育成大会（及び社会を明るくする運動推進大会）を開催するとともに、市内の青少年の健全育成に携わる各種団体・機関と協働して、街頭啓発などの健全育成事業を実施した。また、市内の補導活動、バス・列車を使い近隣市町村まで往復する広域補導を行った。

教育相談室の事業としては、随時相談を受け付け、さらに毎月第3金曜日を特別教育相談日とし、より専門的な相談ができる機会を提供した。

□岡山県少年補導（育成）関係者研修会の実施

県下14の青少年育成センターで組織する岡山県少年補導（育成）連絡会の主催で、年1回県下持ち回りで主催地となり、開催をしている。令和6年度は井原市青少年育成センターが引き受けとなり、アクティブライフ井原メルヘンホールで開催（R6.11.8）した。

当日参加者は約250名（市内約100名、市外約150名）で、青少年育成センター関係者、警察署及び少年警察協助手、市内小・中・高等学校教職員及び岡山県青少年育成県民会議推進指導員・推進員、主任児童員、PTA 関係者、井原市青少年

	問題協議会委員等で、講演や事例発表による活動状況の報告を通じて、青少年の現状と課題・問題点に関する研鑽を深めた。
課題と対応策	井原市連合少年団協議会の活動支援 事業を担う役員（運営委員）が高齢となっており、後任の育成が継続課題となっている。
有識者による 評価意見等	井原市連合少年団協議会の活動支援 少子化、子どもの土日行事の多様化などの背景も理解できるところであるが、子どもたちが体験を通して学べる活動の一層の充実についての検討をしていただきたい。また事業を担う役員（運営委員）の育成にも引き続き力を入れ、活力ある組織運営が図られるよう、事務局に期待する。

1－（3）家庭や地域の教育力の向上							
<p>少子化が進んでおり、妊娠時から出産に対する悩みや不安を抱える妊婦も少なくありません。また、乳幼児期の子育ての不安を相談したり、交流したりする機会が減少し、若い保護者の孤立化が心配されます。インターネットなどの大量な子育て情報に接し、子育てに困難さを感じている保護者もいます。</p> <p>子どもが成長過程で段階的に身に付けるべき能力や体力について、専門家のアドバイスや親同士の交流は、保護者に大きな自信を与えます。近年の外遊びの減少や体力の低下は、基本的な生活習慣の乱れと深く結び付いています。規則正しい生活リズムの確立が重要です。</p> <p>また、青少年の体験活動や地域行事への参加は、人格形成にとって重要です。それぞれの家庭の実態に寄り添った支援が必要です。そのためには、地域全体で子育てに関わる仕組みを整えることが大切です。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	子育て講座開催数 （保・幼・小・中）	10 回	40 回	50 回	50 回	50 回	50 回
		(R3)	38 回	42 回			
令和6年度中 における取組 状況と成果	□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】 ◎柱5) 家庭教育の支援(再掲) ◎柱6) 読書活動の推進(再掲)						
課題と対応策	子育て支援体制の整備 子育てサポーターについては、託児要請のある行事が増えており、派遣件数や1回当たりの派遣人数が多い行事も増えたため、活動機会が増加した。また、新たな派遣先として定期的な託児の受け入れも予定しており、今後はさらに子育てサポーターの活動機会の増加が見込まれる。 新規で活動を始めた子育てサポーターに対するスキルアップ(ベテランサポーターとのペアによる派遣など)を行って、子育て支援体制の整備に努めていく。						
	家庭教育学級・幼児教育学級等の支援 家庭教育学級・幼児教育学級への参加者数は、少子化や役員となった場合の負担感などから減少傾向であり、学級を休止している地区もある。各学級のあり方や運営方法について検討をすすめる必要がある。各学級等の学習機会の提供については、中央公民館や市の事業での研修会や動員が、学級離れの大きな要因となっているため、動員が通例となっていた行事を見直し、削減するとともに、くらしと人権講座等と連携するなど、参加しやすい学習環境の整備に努めていく。						
有識者による 評価意見等	家庭教育学級・幼児教育学級等の支援 幼児教育学級については、いずれの地区も活動が弱体化している。何とか活動が継続して行われるよう行政の支援を継続してもらいたい。						

2. 生涯学習の充実

2-(1) 生涯学習によるまちづくりの推進

市民と行政が協働でまちづくりを進めていくために開催している「いきいきばら出前講座」の充実や「まなびめいと」の活動支援、また、『ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業』の実施により、地域と学校の連携・協働による「井原“志”民」の育成と「志縁コミュニティ」の形成を促進するなど、市民が生涯学習を通して学んだ成果をまちづくりや人づくりに生かすことができるよう、支援や指導を充実させる必要があります。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	井原“志”民塾開催 回数(公開講座)	6回 (R4)	6回	6回	6回	6回	6回
			7回	7回			
令和6年度中 における取組 状況と成果	□生涯学習推進本部の機能の充実						
	生涯学習関連事業を網羅した、生涯学習ガイド「まなびすと」などを通じて情報提供をすすめ、生涯学習の推進を図った。						
	行政内部の関係部署との連携を図り、効果的な情報収集と情報提供ができた。						
	・人材バンクの充実						
	専門知識や技術を身につけた指導者やボランティアの方に、びんご人材ネットワーク「まなびんご」への登録を促し、地域での学習会などに紹介・派遣するなど、活躍の機会や場を提供した。(備後圏域での登録者総数97人のうち市内の登録が7人)。						
	□生涯学習関連事業の把握と総合的な推進						
	「井原市生涯学習基本構想・基本計画」に基づき、ライフステージに応じた学習機会の創出や生涯学習推進のための体制づくりを計画的に進めた。						
	アクティブライフ井原を拠点として、生涯学習に関する各種情報を収集・整理し、学習内容・施設の情報など適切な学習情報の提供を行った。また、収集した情報を活用した学習相談体制の充実を図った。						
	□学習情報の発信						
	・生涯学習ガイド「まなびすと」						
	教育施設、公民館や生涯学習関連施設等へ350部作成し配付						
	・子ども情報誌「でんしょばと」等の作成						
	年3回各5,500部作成し、市内保幼小中学生、教職員、公共施設に配布						
	□計画的な社会教育主事（社会教育士）の育成						
	計画的に社会教育主事講習を受講し、有資格者を配置している。						
	社会教育主事講習						
	(平成22年度1人、24年度1人、26年度1人、28年度1人、30年度1人、令和3年度1人、5年度1人、6年度1人)						

課題と対応策	<p>生涯学習推進本部の機能の充実</p> <p>生涯学習推進の取組は多岐に渡るため、行政内の各部署間の連携を密にし、さまざまな施策・事業を効果的に組み合わせ、相乗効果を発揮させることが重要である。引き続き、重複する施策等の選択と集中を経て、俯瞰的視野に立って各事業を効果的に推進していく。</p>
有識者による 評価意見等	<p>計画的な社会教育主事（社会教育士）の育成</p> <p>社会教育主事（社会教育士）の育成については、継続して取り組んでもらいたい。</p>

2-(2) 魅力ある学習機会の提供と環境づくり

市民の価値観やライフスタイルが多様化する中、市民の様々なニーズに応える学習や多岐にわたる現代的課題に対応した学習機会の提供及び文化・芸術活動、スポーツの更なる振興が求められています。市民が気軽に参加でき、楽しく学習・交流を深めることができる参加・体験型学習の推進にも努める必要があります。

併せて、新たな市民の学習ニーズの把握に努め、ライフステージに応じた生涯学習の普及啓発を図るとともに、地域課題解決型の講座を取り入れるなど、講座内容を精選・工夫して展開することも求められています。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段:目標値 下段:実績値	地区公民館利用者数	142,808 人 (R3)	144,000 人	144,000 人	144,000 人	144,000 人	144,000 人
			114,758 人	125,923 人			
	いきいきいばら出前講座派遣件数	86 件 (R3)	100 件	110 件	120 件	130 件	140 件
			108 件	98 件			
	まなびフェスタ参加団体数	37 団体 (R4)	35 団体	38 団体	38 団体	38 団体	38 団体
			37 団体	24 団体			
	成人大学講座受講者数	4 人 (R3)	110 人	120 人	130 人	140 人	150 人
			106 人	32 人			
	寿大学院、芳寿大学、美星長寿学級の申込者数	667 人 (R3)	677 人	683 人	670 人	670 人	670 人
			632 人	571 人			
	芳井生涯学習センター芸術文化事業入場者数	677 人 (R4)	450 人	900 人	450 人	900 人	450 人
			313 人	777 人			
星の郷ふれあいセンター利用者数	1,495 人 (R3)	11,000 人	11,000 人	11,000 人	11,000 人	11,000 人	
		4,051 人	4,223 人				
人口1人当たりの図書館図書貸出冊数	5.7 冊 (R3)	6.2 冊	6.4 冊	6.6 冊	6.9 冊	7.1 冊	
		6.8 冊	6.6 冊	—	—	—	
アクティブライフ井原・芳井生涯学習センター利用者数	45,796 人 (R3)	47,000 人	47,000 人	47,000 人	47,000 人	47,000 人	
		60,941 人	70,399 人				
令和6年度中における取組状況と成果	□成人大学講座の開設 初心者向けスマートフォン講座を10講座実施。延参加者32人						
	□高齢者学級の開催 井原・芳井・美星の高齢者大学の各学級でそれぞれの会場において学習会を開催し、多くの方に受講してもらう機会を提供することができた。						
	寿大学院 申込者数 187人						
	芳寿大学 申込者数 244人						
	美星長寿学級 申込者数 121人						
	むつみ会 11回 申込者数 19人						

	<p>□図書館蔵書の充実と図書館の利用促進</p> <p>蔵書数 333,087冊</p> <p>井原(さくら号含む) 209,351冊、芳井 72,637冊、美星 51,099冊</p> <p>計画的に蔵書を購入し、蔵書の充実を図ることができた。</p> <p>□地域の特徴を生かした開かれた公民館活動の推進</p> <p>・地域の特徴を生かした開かれた公民館活動の推進</p> <p>地域における生涯学習の推進、まちづくりや福祉事業の拠点施設として活用されており、各地域で特色のある事業が展開されている。</p> <p>年々、各地域の活動が活発になっており、公民館活動の推進を図ることができた。</p> <p>・講座生・各種グループや地域団体との共催による地域課題解決等の諸講座の開設(学びの輪の拡大⇒まちづくり)</p> <p>まちづくり協議会、青少年を育てる会、民生児童委員協議会などと連携し、地域課題解決とまちづくり推進のための講座等を実施した。</p> <p>□パソコン講座等の支援(貸出用パソコンの活用)</p> <p>木之子公民館、井原公民館、芳井生涯学習センター及び芳井公民館でパソコン講座を実施した。</p> <p>また、公民館を利用するパソコン同好会などの自主グループに、ノートパソコンの貸し出しを行った。</p> <p>□青少年団体等の指導者育成(P T A指導者研修会)</p> <p>県が主催するPTA等指導者研修会(Web形式)に市内幼・小・中の保護者、教職員20人が参加した。</p> <p>□生涯学習の成果発表の機会づくり</p> <p>・生涯学習の集い「まなびフェスタ in いばら」の開催</p> <p>1月26日に生涯学習の集い「まなびフェスタ in いばら」を生涯学習体験に重点を置いた内容に構成変更し、開催した(参加団体数24団体29講座)。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。</p> <p>・文化祭等の開催</p> <p>地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展示や舞台発表等を行った。</p> <p>□芳井生涯学習センター事業の開催</p> <p>・文化講演会 入場者数323人「西川ヘレン」文化講演会</p> <p>・コンサート(隔年) 入場者数454人「徳永ゆうき+木山裕策」ジョイントコンサート (令和3年度から隔年開催。次回は令和8年度開催)</p>
--	--

	<p>□優秀映画鑑賞会、子ども映画会の実施 優秀映画鑑賞会 2回 延べ110人(アクティブライフ井原) 子ども映画会 1回 延べ140人(アクティブライフ井原) 上映作品に関しては、来場者アンケートや話題作を参考に選出している。</p> <p>□人材活用の拡充 ・びんご人材ネットワーク「まなびんご」の活用 専門知識や技術を身につけた指導者やボランティアの方に、びんご人材ネットワーク「まなびんご」への登録を促し、地域での学習会などに紹介・派遣するなど、活躍の機会や場を提供した(備後圏域での登録者総数97人のうち市内の登録が7人)。 (再掲)</p> <p>□民間団体等との協働による事業の推進 ・アクティブライフ井原まなびめいと(少年少女合唱団・ジュニア弦楽合奏団・井原アートクラブ等)の活動支援 少年少女合唱団…講座を24回実施。合唱フェスティバルに出演。ミニコンサートを開催。 ジュニア弦楽合奏団…講座を24回実施。ミニコンサートを開催。 井原アートクラブ…講座を24回実施。写生大会を開催。 いろは塾…年3回、延べ84人参加。 事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。小学生を中心にいろは塾を主催することで、体験学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。</p> <p>□いきいきいばら出前講座の実施 市民からは好評を得ており、行政職員の生涯学習に対する意識の向上を図れた。 (講座回数98回)</p>
課題と対応策	<p>成人大学講座の開設 講座を平日に開催していることから、現状では参加者の大多数が高齢者となっている。就労・子育てを行っている現役世代には平日の参加が難しいと考えられるので、参加しやすい日程や学習内容のニーズを研究しながら魅力のある講座の開催を検討していく。</p> <p>高齢者学級の開催 各学級の参加者数は減少している傾向にある。アンケートなどによる受講者のニーズに合った講座内容を検討し、広報・周知に努め、参加者の増加を図りたい。</p> <p>芳井生涯学習センター事業の開催 新型コロナウイルス感染症等の影響等により、集客が減少傾向にあったが、文化講演会は、若干ではあるが、入場者数が増加し、コンサート事業は、入場者数が大幅</p>

	<p>に増加した。引き続き、知名度のある出演者や集客の見込める内容の事業を検討するとともに、効果的な PR に努める。</p> <p>民間団体等との協働による事業の推進</p> <p>アクティブライフ井原まなびめいとでは、会員の減少や指導者の高齢化が進んでいることから、イベント等で「まなびたいこと」などのアンケート調査を行い、新たなニーズの掘り起こしに努めて参加会員の確保を図っていく。</p> <p>また、ジュニア育成活動の少年少女合唱団とジュニア弦楽合奏団では、少子化や児童の週末の過ごし方の多様化などもあり参加児童数が減ってきているため、募集案内などの工夫を行いながら参加児童の確保に努めていく。</p>
有識者による 評価意見等	<p>成人大学講座の開設</p> <p>講座の内容については、AI の活用など時代やニーズに合致したものを取り入れるなどの検討を行い、参加者の増加を図るとともに、学習機会の提供に努めていただきたい。</p>

3. 人権を尊重する社会の実現

3-(1) 人権教育の推進

人間の生命はかけがえのないものであり、これを尊重することは何よりも大切であることは言うまでもありません。その上で、性別や年齢、国籍の違い、障害の有無などに関わりなく、全ての人間の人権が守られ、幸せに生きることのできる社会の実現は、世界共通の最重要課題と言えます。生活様式の変化や価値観の多様化、新型コロナウイルス感染症の流行など、新たな現代的課題も生まれるなか、互いの価値観や生き方を認め合いながら、誰もが個性や能力を発揮し、自分らしく生きることのできる社会の実現に向け、様々な人権問題に対する理解を深めたり、課題解決に主体的に関わろうとしたりすることのできる人権意識や人権感覚を身に付ける人権教育の推進が求められています。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	くらしと人権 講座受講者数	202 人	1,200 人	1,200 人	1,200 人	1,200 人	1,200 人
		(R3)	806 人	755 人			
令和6年度中 における取組 状況と成果	<p>くらしと人権講座の開催 6 講座を開催した。(受講者延べ人数755人) 各回のテーマが重複しないよう工夫し、様々なテーマによる学習機会の提供を目指して、継続的に取組を行った。 ※可能な講座は井原放送による収録を行い、後日放映することでより多くの人の受講機会の確保に努めた。</p> <p>く諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進(P T A、地区、企業等) PTAや公民館等では人権教育研修会が計画され、必要に応じて支援を行った。 人権啓発教材(DVD 等)を用いた研修会(3校園、7自治公民館、その他 4) 人権尊重のまちづくり出前講座(3/15 大江公民館)</p> <p>く市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進 市民活動推進課と連携し、「人権セミナー2024」を開催。</p> <p>く井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進 成人教養講座、小学生教養講座、ふれあい交流活動及びまつり行事等の主催事業の開催、地域の団体による各種サークル活動や子ども会活動等の支援を行い、年間を通して市民の交流を進めることができた。</p>						
課題と対応策	<p>くらしと人権講座の開催 前年度から受講者数が減少しており、多くの人に参加してもらえるようアンケートなどによるニーズに合った企画や開催方法の工夫や広報活動に努め、くらしと人権講座の開催については多様な人権課題等について多くの人が考える機会となるよう、引き続き各課との連携やワークショップの導入、現地研修の実施など、工夫・検討していく。</p>						

<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進(P T A、地区、企業等) 人権啓発教材(DVD等)の有効活用について、検討を行っていただき、より一層啓 発活動を推進していただきたい。</p> <p>くらしと人権講座の開催 課題と対応策のとおり、引き続き多くの人に参加してもらえようニーズを捉えた企 画と開催方法の工夫及び広報活動に努め、実施していただきたい。</p>
-------------------------	--

3. 個性ある地域文化を育むまちづくり（文化活動の充実）

1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり

1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり							
<p>市民の芸術・文化活動への関心を高め、鑑賞・発表機会の拡充や文化関係団体の支援を図るとともに、各種芸術・文化活動の情報提供や啓発活動の充実に努めます。</p> <p>また、優れた芸術・文化に触れることのできるイベントを企画・開催することにより、地域間文化交流を推進します。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	平櫛田中美術館 入館者数	34,190 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人
		(R5)	34,190 人	33,494 人			
令和6年度中 における取組 状況と成果	<p>□臨「鏡獅子」の活用</p> <p>4月1日から5月12日まで（開館36日間）、企画展「鏡獅子20年ぶりの里帰り」を開催し、入館者数は7,370人と好評であった。また、3回に分けて所蔵名品展も開催し、「鏡獅子」の展示と併せて好評を得た。</p>						
	<p>□臨平櫛田中美術館特別展「平櫛田中の芸術展」の開催</p> <p>10月11日から12月8日まで（開館51日）開催し、来館者数10,546人と好評であった。</p>						
	<p>□平櫛田中美術館ワークショップの開催</p> <p>講習室を会場に3回開催し、延べ45人の参加があった。</p>						
	<p>□臨文化協会70周年記念事業の支援</p> <p>文化協会発足70周年記念事業として「未来につなげよう井原の文化」をテーマに、次代へつなげる文化活動の取り組みが協会員や多くの参加者により実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式典・祝賀会（5/25、アクティブライフ井原・井原市地場産業振興センター） ・記念誌発刊（1,200部発刊） ・文化を訪ねる旅（7/4～7/6、東京方面：2泊3日、23人参加） ・文化公演会「秋川雅史コンサート」（11/23、市民会館、922人入場） ・市民ギャラリー展（5/22～6/16、市民ギャラリー、1,011人入場） ・合同文集「茨VI」発刊（400冊発刊） ・市民茶室「不老庵」30周年記念茶会 (5/19、市民茶室・市民会館、594人来場) 						
	<p>□芸術・文化団体の育成・支援</p> <p>文化協会は、会員数1,062人、31専門部と33文化教室、芳井支部・美星支部が</p>						

	<p>活動した。文化協会の会員数は微減であったが、文化教室は教室数、受講生数ともに減少が進んでいる。</p> <p>□文化祭、各種発表会の開催支援</p> <p>令和5年度より井原市文化祭の会場をリニューアルした平櫛田中美術館、井原市役所へ変更し、市民会館、平櫛田中美術館、井原市役所一帯に集約して実施することとしていた。但し、令和6年度は市民会館改修工事のため使用ができなかったため井原市地場産業振興センター、アクティブライフ井原を会場に追加して開催した。また、リニューアルした平櫛田中美術館に併設している市民ギャラリーを活動の発表の場として活用した。</p> <p>■井原市文学賞の実施</p> <p>平成26年度より児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施している。一般の部は、5 部門（短歌・俳句・川柳・現代詩・随筆）で作品を募集し、69点の応募があり、児童・生徒の部では、短歌、俳句、川柳、詩の4部門で作品を募集し、3,759点の応募があった。応募総数は、一般の部、児童生徒の部いずれも減少した。</p> <p>□観月会の開催</p> <p>昨年に引き続きお茶席を含めた市民会館、田中苑周辺での開催となった。三曲による演奏やお茶席へ多くの方が参加され、伝統文化継承の一助となった。</p> <p>□伝統文化体験教室「和の楽校」の開催支援</p> <p>平成26年度より文化協会主催で実施している「和の楽校」をアティブライフ井原、美星公民館、井原小学校で開催することができた。昨年度を上回る延べ85人の参加があり、伝統文化の後継者育成を図った。</p> <p>□文化部活動の地域移行の推進</p> <p>部活動の地域移行を進めるため、いばら生き生きクラブに吹奏楽クラブを新たに開講し、受け皿となるよう体制を整備した。また、小学校や中学校への部活動地域移行についての周知を行った。</p>
課題と対応策	<p>芸術・文化団体の育成・支援</p> <p>近年、少子高齢化や情報の多様化など社会情勢の変化に伴い文化協会員、文化教室受講生が減少傾向にある。</p> <p>令和6年度は文化協会70周年記念事業として「未来につなげよう井原の文化」をテーマに記念事業が展開され、文化協会の活動の周知や次代の文化の担い手づくりを進めてきた。また、引き続き文化協会員の成果を発表できる場である市民ギャラリーの活用や伝統文化体験教室「和の楽校」を実施することで次代の文化の担い手を発掘していく。</p> <p>また、部活動の地域移行の受け皿を文化団体が担うことにより、次代の文化の担い手育成に繋げたい。</p>

<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>芸術・文化団体の育成・支援</p> <p>文化協会が70周年を迎えられたことはすばらしいこと。先人の培われた文化を継承し、未来へ繋げていけるよう、文化協会員や文化教室受講生の確保を図る観点からも、引き続き情報発信等に努めていただきたい。</p>
-------------------------	--

2. 文化施設の活用

2. 文化施設の活用							
平櫛田中美術館、市民ギャラリー、文化財センター等の適切な維持管理に努め、これら文化施設の特色ある拠点整備を推進するとともに、各施設間の連携を一層深めることにより、利用の促進を図ります。							
目標指標 ※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	平櫛田中美術館入館者数 (再掲)	34,190 人 (R5)	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人
			34,190 人	33,494 人			
	市民ギャラリー利用者数	12,986 人 (R5)	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人
			12,986 人	8,719 人			
	文化財センター利用者数・芳井歴史民俗資料館入館者数	6,811 人 (R5)	7,000 人	7,000 人	7,000 人	7,000 人	7,000 人
6,811 人			5,791 人				
令和6年度中における取組状況と成果	<div>□平櫛田中美術館での芸術文化情報発信</div> <p>令和6年2月から展示が始まった平櫛田中の代表作「鏡獅子」の里帰りの効果もあり、市外県外から多くの来館者があった。</p> <div>■市民ギャラリーの利用促進</div> <p>井原市文化協会の各部会を中心に、市内外の団体の利用が年間を通してあった。利用件数は1件増加したが、利用者数は昨年度を下回った。</p> <p>利用件数27件(R5:26件)、利用者数8,719人(R5:12,986人)</p> <div>□田中苑、文化財センター、芳井歴史民俗資料館、星の郷民具伝承館、桜溪漢学塾公園の維持管理</div> <p>入館者及び利用者は、コロナ禍前の状況にほぼ戻った。施設の適切な維持管理に努めた。</p> <div>□市民茶室の維持管理と利用促進</div> <p>利用件数14件、利用者数953人であり、コロナ禍前の状況にほぼ戻った。</p>						
課題と対応策	<div>平櫛田中美術館での芸術文化情報発信・市民ギャラリーの利用促進</div> <p>新美術館が井原市の芸術文化を高める発信拠点となるために、今後、どのような展覧会を開催するか、こういった講座、ワークショップなどを実施するかを検討する必要がある。</p> <p>引き続き、魅力ある美術館となるため、平櫛田中美術館運営委員会の意見を聴きながら、展示のあり方等を工夫すると共に、新美術館に併設された市民ギャラリー、講習室をより多くの方に利用していただけるよう、主たる利用団体である井原市文化協会との連携に努める。</p>						
有識者による評価意見等	<div>市民ギャラリーの利用促進</div> <p>引き続き、幅広い方にご利用いただくよう、啓発等に努めていただきたい。</p>						

3. 文化財・歴史的資源の保存・活用

3. 文化財・歴史的資源の保存・活用	
<p>ふるさと意識の高揚のため、多様な地域の文化財や歴史的資源の保存・活用を図るとともに、文化財センターを中心とした適切な保存・管理に努めることにより、文化財保護の意識を高め、郷土愛の醸成を図ります。</p>	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□文化財センターの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の整理・保存 民間や市の開発事業に係る確認調査や立会調査を実施し、埋蔵文化財の保存に努めた。保存すべき文化財は発見されなかった。 ・歴史資料の整理・保存 市へ寄贈や寄託のあった歴史資料について、適宜整理を行い、保存することができた。 ・体験講座・考古学講座の開催 縄文時代をテーマに考古学講座を2回開催したほか、染めものの体験や古文書講座などセンター講座を2回、企画展示解説講座を2回実施し延べ152人が参加した。井原市内外の文化財について、学習の機会を提供することができた。 ・文化財めぐりの開催 文化財めぐりを2回実施し延べ35人が参加した。井原市内の文化財について、学習の機会を提供することができた。 <p>□文化財センター企画展の開催</p> <p>令和6年度は企画展を3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「平井家文書から読み解く江戸時代」（4月20日～6月9日） 入場者数 671人 ・夏季企画展「生誕180年記念 馬越恭平と岡山のかかわり」 （7月27日～9月23日）入場者数 611人 ・秋季企画展『国指定史跡「彦崎貝塚」から見る縄文時代のくらし』 （10月26日～12月15日）入場者数 687人 文化財センター企画展入場者数合計 1,969人 <p>普段見ることができない近隣や郷土の資料を紹介することができた。</p> <p>□井原市歴史講座の開催</p> <p>地域に伝わる仏像や神像について鑑賞するポイントや仏教美術をより親しみやすいものにするため「備中・備後の神像と仏像」をテーマに、1回目は「備後の仏像 仏像をもっと深く味わうために」（60人参加）、2回目は「神像の魅力 平櫛田中美術館蔵〈大地母神坐像〉を中心に」（68人参加）と題して開催し、多くの方に聴講していただいた。</p>

	<p>□芳井歴史民俗資料館特別展・企画展の開催</p> <p>・春季企画展「美星町&芳井町 写真で振り返る我が町の70年」 (4月2日～6月30日) 入館者数 681人</p> <p>・第55回特別展「井原を訪れた「新1万円札の顔」渋沢栄一」 (10月12日～12月1日) 入館者数 564人 来館者合計 1,245人</p> <p>□伝統芸能の保存・継承</p> <p>渡り拍子の保存団体へ保存継承への補助金を支出した。三原渡り拍子保存会により、11月9日(系崎八幡神社)、10日(中山天神社)に神事が行われた。また、種地区の伝統芸能である種の渡り拍子は、11月23日(種八幡神社)に神事が行われた。また、文化庁の伝統文化親子教室事業に対する国の補助金申請の窓口となり、地域クラブ長発太鼓(井原町まちづくりの会)が補助金を受け活動している。</p> <p>□歴史・文化遺産情報発信事業の実施(ホームページ「いばら歴史館」による情報発信)</p> <p>井原市の文化財や偉人、伝統芸能など貴重な歴史遺産を分かりやすく公開し、情報発信に努めた。また、新たな指定文化財について掲載内容を更新した。</p>
課題と対応策	<p>伝統芸能の保存・継承</p> <p>少子高齢化や過疎化に伴い、伝統芸能の保存、継承が困難となっている。後継者育成のため、保存団体が市内全域に出演者を募集するほか保存活動を周知するため様々な取り組みを行っている。行政においても補助金以外にどのような支援ができるか検討する必要がある。</p>
有識者による 評価意見等	<p>文化財センター企画展の開催、芳井歴史民俗資料館特別展・企画展の開催</p> <p>それぞれの文化施設の特徴などを活かした魅力ある企画展等を立案していただき、利用者・入館者の増加に努めていただきたい。</p>

4. スポーツの力でつくる ひととまち（スポーツの充実）

1. 気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり

1－（１）生涯スポーツの振興							
総合型地域スポーツクラブ「いばら生き生きクラブ」を中心に、子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しめる環境整備を進めます。							
また、スポーツ推進委員を派遣して地域スポーツ教室を開催することにより、各地域における生涯スポーツの推進を図ります。							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※対象年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	いばら生き生きクラブ 会員数	355 人 (R5)	550 人	550 人	550 人	550 人	550 人
			355 人	406 人	-	-	-
令和6年度中 における取組 状況と成果	□スポーツ教室の充実 弓道教室、ソフトテニス教室、卓球教室、バドミントン教室、新体操教室、水泳教室、SUPヨガ教室、海洋クラブを開講した。予定していた教室のうち庭球教室、男子新体操教室は申し込みが少なく開講できなかった。(5,794人参加)						
	□いばら生き生きクラブの活動の充実と自立の促進 ソフトバレーボール、弓道、ソフトテニス、テニス、陸上競技、卓球(昼・夜)、合気道、華道、バウンドテニス、バドミントン、大人の楽トレに加えて野球、バレーボール、トランポリン、空手、吹奏楽を開講し、部活動の地域移行の受け皿になる組織となるよう拡充した。(15種目1教室:会員数 406 人)						
	□スポーツ推進委員の活動の充実 各推進委員を中心に、地域スポーツ教室等を11回開催し、地域スポーツやニュースポーツを普及することができた。(派遣委員:延べ38人)						
	□ニュースポーツの普及 ホームページ等でニュースポーツの紹介や備品貸出のPRを行うとともに、スポーツ推進委員が行う地域スポーツ教室や各種団体(校園長会、公民館長会等)での周知も行い普及に努めた。(貸出し種目:20種目) 地域が行う子供会や放課後児童クラブなどに多くの備品を貸し出すことができ、活用が図られた。(貸出し件数:63件)						
課題と対応策	いばら生き生きクラブの活動の充実と自立の促進 少子高齢化やコロナ禍、スポーツ活動の広域化などによりクラブの会員がコロナ禍前まで回復していない。令和6年度では、部活動の地域移行の受け皿としてクラブをニーズに合わせて追加することで前年度より会員は増加したが、引き続き、周知やニーズの把握に努める必要がある。						
	また、クラブ活動を実施するうえで、指導者・後継者の育成・スキルアップが課題となっており、講習会等を計画的に実施する必要がある。						
有識者による 評価意見等	いばら生き生きクラブの活動の充実と自立の促進 引き続き、子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しめる環境づくりに努めていきたい。						

1－（２）体力や健康状態にあったスポーツの振興							
市民一人ひとりの年齢や体力、興味に応じてスポーツに取り組めるよう、スポーツ教室やスポーツイベント等の内容の充実を図るとともに、多くの市民がスポーツを楽しみ、自主的なスポーツ活動を通して交流できる環境づくりを進めます。							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	井原市グラウンド・ゴルフ場利用者数	21,045 人 (R5)	21,000 人	22,000 人	23,000 人	24,000 人	24,600 人
			21,045 人	22,084 人	-	-	-
令和６年度中 における取組 状況と成果	□スポーツ大会等の実施、充実 予定されていたスポーツ大会はほぼ実施することができ、参加者数もコロナ禍前の状況に戻っている。また、市民体育祭に代わるスポーツイベントとして、体験型のスポーツフェスティバルを実施し、多くの参加者があった。なお、令和７年度以降は、本年度実施したスポーツフェスティバルを開催することとなった。（参加者数：600人）						
	□グラウンド・ゴルフ場の利用促進 高齢者のスポーツ活動の拠点となるだけでなく、幅広い年齢層の市民の健康づくりの場となっている。（利用者数：22,084人）						
	□市民スポーツの日の充実（毎年１０月第２月曜日（スポーツの日）） 「市民スポーツの日」は、スポーツ施設の無料開放を行い、スポーツに親しむ場を提供し、多くの方に利用していただいた。（利用者数：383人）						
	□運動部活動の地域移行の推進 部活動の地域移行に伴う部活動指導員の確保に努めた。また、地域移行の受け皿である地域クラブの組織化を進めた。また、小学校や中学校へ部活動の地域移行についての周知を行った。						
課題と対応策	運動部活動の地域移行の推進 運動部活動の地域移行の動きに対して、部活動の指導者等にスポーツ協会の人材を活かすよう周知を行っているが指導者の人材が不足している。また、地域移行の受け皿となる地域クラブの組織化を進めているが、少子化によるクラブへの加入者減少が進んでいる。 引き続き部活動の地域移行について周知を図り、指導者の人材確保やクラブ員の確保に努める必要がある。						
有識者による 評価意見等	運動部活動の地域移行の推進 人材確保、地域の受け皿確保など、引き続き、課題解決に向けた取り組みを行い、地域展開に繋げていただきたい。						

2. 競技スポーツの振興

2-(1) 井原市スポーツ協会の充実	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□各種スポーツ大会の開催</p> <p>≪井原体育館・芳井体育館≫ バレーボール大会、卓球大会、バドミントン大会、空手道大会、柔道大会、剣道大会、合気道体験会、ソフトバレーボール大会、太極拳体験講習会 (9競技 17大会 1講習会 2,187人)</p> <p>≪陸上競技場・芳井運動場・美星運動場≫野球大会 (1競技:2大会:333人参加)</p> <p>≪野球場≫ 野球大会(2大会 280人参加)</p> <p>≪庭球場≫ 庭球大会(6大会 242人参加)</p> <p>≪弓道場≫ 弓道大会(2大会 53人参加)</p> <p>≪グラウンド・ゴルフ場≫ グラウンド・ゴルフ大会(1大会 162人)</p> <p>≪ロード≫ 井原市駅伝競走大会、県高校駅伝大会、市民サイクリング大会 (4大会 607人参加)</p> <p>≪リフレッシュ公園≫ 野球大会、ソフトボール大会、サッカー大会 (4大会 317人参加)</p> <p>≪その他≫ ゲートボール大会、ゴルフ大会(2大会 126人参加)</p> <p>予定された大会の内4大会が参加が少なく中止となった。</p> <p>□競技人口の増加対策</p> <p>スポーツ協会と連携し、大会開催の周知に努めるとともにスポーツ教室を開催し、競技人口増加に努めた。(スポーツ教室参加者数 5,794 人:再掲)</p> <p>□高レベルの技術に触れる機会の創出</p> <p>井原カップ男子新体操競技大会、井原新体操フェスティバル、県高校駅伝競走大会(男女)、県ハーフマラソン選手権大会は予定どおり実施することができた。(再掲)</p> <p>また、全国健康マラソン井原大会へは木崎良子選手をゲストランナーとして招待し、参加者がトップアスリートと触れ合う機会を創出した。</p> <p>□井原市スポーツ協会長表彰</p> <p>体育功労者・団体及び優秀選手・団体を表彰した。 (スポーツ奨励賞1団体、功労者4人、優秀選手42人、優秀団体15団体)</p> <p>優秀な選手及び功労者を激励・顕彰するとともに市民への周知を図った。</p>

課題と対応策	<p>各種スポーツ大会の開催</p> <p>少子高齢化に伴い競技団体や競技人口が減少し、参加人数や参加団体が減少している大会がある。スポーツ教室の周知を行い、スポーツの新たな担い手を発掘する必要がある。</p>
有識者による 評価意見等	<p>各種スポーツ大会の開催</p> <p>各競技種目において、チーム数が減少している。スポーツ協会専門部がより活発に活動できような仕組み作りをお願いする。</p>

2-(2) スポーツによる元気の発信	
市民と行政が一体となって、「陸上競技」「新体操」などの競技スポーツのレベルアップを図り、全国に井原の“元気”を発信します。	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□陸上競技、新体操のまちづくり 興譲館高校陸上競技部、新体操選手育成強化（井原高校、井原ジュニア新体操クラブ、Sparkle井原R.G）への財政的支援を行った。 また、引き続き県立井原高校南校地跡地を練習会場として継続使用できるよう県教委との協議を進め、練習会場の確保を行った。</p> <p>□大会開催や大会出場への補助 文化・スポーツ振興協会と連携し、井原カップや新体操フェスティバル、全国健康マラソン井原大会・星の郷健康マラソン大会等へ財政的支援を行うとともに、全国大会・中国大会へ出場する選手及び団体へ激励金を交付することで大会出場の補助を行った。</p> <p>□講習会の実施 審判講習会（ソフトボール・野球）や、熱中症対策講座、救急法講習会を開催し、スポーツ振興に不可欠である指導者・審判員の技術向上・資質の向上を図った。 （3種目3回開催、51人参加）</p> <p>□井原市スポーツ表彰（顕功賞、栄誉賞、奨励賞、功労賞） スポーツ奨励賞1団体を表彰した。（再掲）</p> <p>□文化・スポーツ振興協会との連携 全国健康マラソン井原大会及び晴れの国岡山駅伝競走大会選手派遣事業への助成を行い、スポーツレベルの向上と普及振興に努めた。また、全国大会・中国大会に出場する選手に激励金を交付し、競技者の意欲向上につなげた。 （114大会 団体競技：15団体194人 個人競技：225人）</p> <p>□スポーツ施設の整備・充実 市民の方が施設を安全で快適に利用できるよう施設・設備の整備・充実に努めた。</p>
課題と対応策	<p>講習会の実施 少子高齢化や社会情勢の変化によりスポーツ活動の指導者や審判員の減少が進んでいる。スポーツの裾野を広げるとともに競技スポーツのレベルアップを図るため、各種講習会や講座を開催し、指導者・審判員の技術・資質の向上を図るとともに後継者の育成を図る必要がある。</p>
有識者による評価意見等	<p>スポーツの振興 指導者・審判員の技術等の向上や後継者の育成を図り、引き続き、スポーツの振興に努めていただきたい。</p>

5. 教育施設・設備の整備と機能の充実

1. 学校（園）施設・設備の整備と機能の充実

1. 学校（園）施設・設備の整備と機能の充実	
<p>学校施設関係では、学校施設長寿命化計画に基づき効率的かつ計画的な維持管理に取り組み、安全で快適な教育環境づくりに努めます。</p> <p>また、確かな学力向上や非常時における学びの保障のため、ICT環境の整備に努め、教育環境の向上を図ります。</p>	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□営繕工事</p> <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水改修工事（大江、青野、井原小学校） ・外壁改修工事（大江小学校） ・ブロック塀改修工事（野上小学校） <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水・外壁等改修工事（芳井中学校） <p>【幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開放廊下床改修工事（青野幼稚園） <p>□新貸出用携帯電話導入</p> <p>校外学習等における緊急連絡対応のための貸出用携帯電話を教育委員会に3台整備を行い、必要に応じて学校園が利用できる体制を整えた。教育活動における児童生徒等の安全性の向上や教職員間の連携強化などを図った。</p>
課題と対応策	<p>学校施設長寿命化計画の推進</p> <p>学校施設の多くが、昭和40年代後半から50年代にかけて建築されており、老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えつつある。</p> <p>このような状況のなか、本市の財政状況や施設の再編の方向性などと整合性を図りながら、引き続き計画的に施設の改修等を実施する必要がある。</p>
有識者による評価意見等	<p>学校施設長寿命化計画の推進</p> <p>学校施設の大規模な改修工事については、今後検討を進めていかれる小・中学校の適正規模・適正配置の検討と整合性を図りながら、実施してもらいたい。</p>

2. 社会教育施設・設備の整備と機能の充実

2. 社会教育施設・設備の整備と機能の充実	
公民館等の備品の更新や、利用者の安全性や利便性等に配慮した施設整備を行い、社会教育環境の充実に努めます。	
令和6年度中における取組状況と成果	<p>□公民館 木之子・野上・青野公民館及び芳井公民館明治・共和・三原分館の LED 灯をリースにより整備した。</p> <p>また、井原公民館では、ブラインド取替修繕を行ったほか、西江原公民館では、非常灯器具の交換修繕、共和分館では空調設備の取替修繕などを行い、井原公民館のテント購入及び三原分館のテレビを更新して、設備の整備を行った。</p> <p>□アクティブライフ井原 西面外壁一部防水修繕（4階・5階）、3階アトリエ西側防火シャッター修繕を行った。</p> <p>□芳井生涯学習センター 館内空調設備の更新（ホワイエ・調理実習室、第1・2・3ミーティングルーム、第1・2研修室、芳井図書館使用部分等）を行ったほか、ホール音響用設備の修繕や舞台照明ボーダーライト上下用親滑車取替修繕などを行った。</p> <p>□星の郷ふれあいセンター 宿泊棟の LED 灯をリースにより整備し、自動火災報知修繕、浴室給湯器修繕を行い、利用者へ安全で快適な施設環境を提供することができた。</p> <p>□井原市ふれあいセンター 施設の LED 灯をリースにより整備した。</p> <p>□美星海洋センター 老朽化による雨漏り等で劣化していた体育館の屋根の防水塗装や天井、床等の内装工事を行うとともに更衣室にベビーシートを設置し利便性を高めた。また、体育館・プールの LED 灯をリースにより整備した。</p> <p>□井原体育館 空調設備導入やトイレの洋式化等のための実施設計を行った。また、会議室の空調設備の更新を実施した。</p> <p>□与一記念弓道場 老朽化していた電動シャッターの取換修繕工事を実施した。</p>

	<p>□井原運動公園庭球場人工芝張替修繕工事 井原運動公園庭球場8面のうち摩耗している4面の人工芝張替工事を行った。</p> <p>□リフレッシュ公園 リフレッシュ公園管理棟の空調設備の更新を実施した。</p> <p>□芳井運動場 下水道共用区域に入ったため下水道接続工事を実施した。</p> <p>□芳井体育館 アリーナ、管理室など LED 灯をリースにより整備した。</p> <p>□学校給食センター 学校給食配送車（美星）の更新を行った。</p>
課題と対応策	<p>生涯学習施設 アクティブライフ井原及び芳井生涯学習センターは、建物及び設備の経年劣化による不具合に加え、製造を終了した音響機器や舞台照明設備、館内設備を継続使用しながら貸館を行っている。利用者に安全で快適な空間を提供するため、今後も引き続き計画的な施設の維持管理と設備の更新に努める。</p> <p>図書館 井原図書館の建物の老朽化及び設備の経年劣化により計画的な修繕や改修が必要な施設となっている。井原図書館の利用者に安全で快適な空間を提供するため、引き続き計画的な施設の維持管理と設備の更新に努める。</p> <p>学校給食センター 調理機器等が老朽化しており、使用不可となった場合は、給食の提供ができなくなる恐れがあるため、計画的な更新を行う。</p>
有識者による 評価意見等	<p>図書館 井原図書館の建物の老朽化及び設備の経年劣化により早期の建て替えが必要と考えます。早期実現に向けて取り組んでももらいたい。</p> <p>学校給食センター 給食提供が安全安心に実施できるよう、施設・設備の予防保全に取り組んでももらいたい。</p>

井原市教育委員

(令和7年3月31日現在)

教 育 長	伊 藤 祐二郎
-------	---------

教育長職務代理者	藤 井 秀 彦
----------	---------

委 員	奥 田 隆 夫
-----	---------

委 員	西 田 友 美
-----	---------

委 員	服 部 教 弘
-----	---------